

豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ

# 富士見

豊橋校区史

27

*Fujimi*











# Lake Town

## レイクタウン 開発の歴史



造成工事中のレイクタウン



レイクタウン第1次分譲の看板



造成が完了し家が建ち始めた(上の写真と同方向から撮影)



新築工事中 トラックがちょっとレトロ



小学校予定地を確保



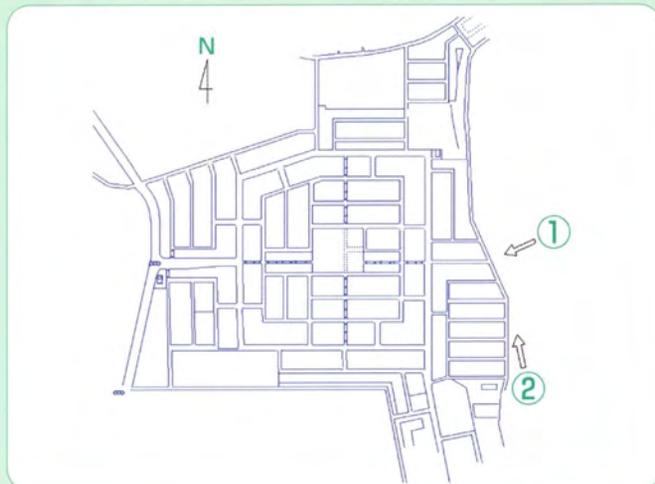
着々と分譲が進んだ



すばらしい桜トンネルもある現在の富士見

# Lake Hills

## レイクヒルズ 開発の歴史



①方向から見た様子

着工前



施工中



現在



②方向から見た様子

着工前



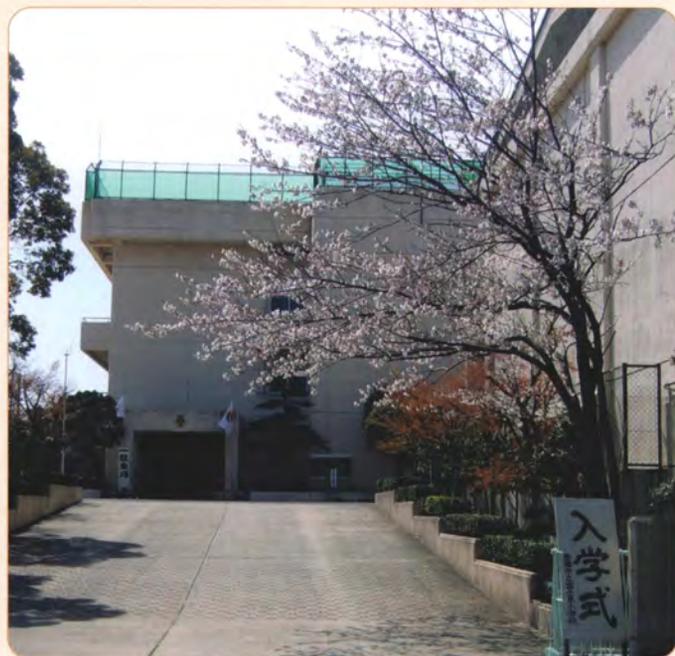
施工中



現在



# 富士見小学校 深く考える 丈夫な体 みんな仲良く



平成18年度 入学式 富士見小学校正門



運動会メイン 騎馬戦



スタンプ



新入生歓迎会



富士見小学校 児童作品

# 発刊によせて



平成18年度  
豊橋市総代会長

西 義 雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業に素晴らしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



平成18年度  
富士見校区総代会長

上 甲 文 武

とよはし100祭おめでとうございます。

私たちの富士見校区は48番目の校区として昭和59年に誕生し、今年で22歳の青年の校区です。

青年の校区には、先輩校区のように綿々と受け継がれてきた歴史や輝かしい伝統はわずかですが、未来へ向かって自分たちが歴史を作っていくのだという、気概に満ち溢れています。

今回の校区史編集にあたって、富士見校区の特徴を出そうと思い、校区の皆さんにアンケートをお願いいたしました。

その結果、富士見校区には日本全国47都道府県すべてから、集まって来ていることがわかりました。全国から集まった人と以前から住んでいた人が一緒になって、新しい街としてつくりあげてきたのが『富士見校区』です。

生まれや育ちは違っても、今はみんな富士見の住民として、校区の行事で親睦を深め、いざとなれば、助け合い、風通しのよい、ネットワークの軽い、何年、何十年たっても青年であり続ける校区を創っていきましょう。

この校区史を読む、富士見校区の小中学生の皆さんは、自分たちこそ、富士見の歴史であり、未来である。と誇りに思い、やがて、何らかの形で、校区の活動に関わっていただけることを熱望します。

# 目次

# CONTENTS

## 第1章 自然と環境

1 位置と自然	7
(1) 富士見校区の位置	7
(2) 富士山に見える町	7
2 土地のようす	8
(1) 市内有数のニュータウン	8
(2) 万場調整池	8
3 気候のようす	9
(1) 温暖な気候と季節風	9
(2) 暴風雨	10
(3) 富士見の四季	10
4 交通のようす	11
(1) 校区内の交通	11
(2) 他の地区への交通網	11

### コラム (子どもを守る優しい目

・富士見にモアイ像)	12
------------	----

## 第2章 歴史と生活

1 富士見校区の歴史	13
(1) 富士見校区のむかし	13
2 富士見校区のあゆみ	16
(1) 開発から富士見校区発足まで	16
(2) 富士見校区発足から現在まで	17
3 富士見校区の活動	20
(1) 富士見校区の行事	20
(2) 富士見校区の自治活動	22
(3) 校区の情報伝達活動	24
(4) 各種団体活動	25
(5) さらなる校区発展に向けて	26

コラム (安全・安心と富士見)	27
-----------------	----

## 第3章 教育と文化

1 学校教育、幼稚園	28
(1) 富士見小学校	28
(2) 高豊中学校	35
(3) 富士見幼稚園・富士見台幼稚園	39
2 社会教育	40
(1) 青少年教育の取組みについて	40
①富士見児童クラブ	

②富士見校区青少年健全育成会・家庭教 育推進委員会	
------------------------------	--

③富士見校区子ども会	
------------	--

④豊橋市中央図書館ボランティアの活動	
--------------------	--

コラム (おはなし玉手箱)	41
---------------	----

⑤富士見クラブ (軟式少年野球チーム)	
---------------------	--

⑥富士見校区地域いきいき子育て事業	
-------------------	--

(2) 生涯学習への取組みについて	44
-------------------	----

①校区民の『生きがい』と『生涯学習』	
--------------------	--

②『校区市民館』と『ふじみハウス』	
-------------------	--

コラム (子育て広場『ふじみっこ』)	46
--------------------	----

③スポーツの拠点『富士見小学校』	
------------------	--

コラム (社会人サッカーチーム『ジュビロ横田』)	47
--------------------------	----

④建設が待たれる二つの『公共の施設』	
--------------------	--

コラム (富士見の風景)	49
--------------	----

編集後記	52
------	----



表紙 こどもからお年寄りまで、家族全員で楽しめる校区最大のイベント『盆踊り』。毎年7月最終土日に開催。  
(平成18年7月29日撮影)

# 第1章 自然と環境

## 1 位置と自然

### (1) 富士見校区の位置

#### ①富士見台

富士見校区は豊橋南部地区にあり、富士見台1丁目から6丁目とその周辺の南大清水町字富士見、老津町字中原、西赤沢町字深山、東赤沢町字坪ノ谷のそれぞれの一部からなる。市役所より南南西に約10km、三河湾からも太平洋からも4～5kmと渥美半島の南北の中央に位置する。

市中心部より南に進み、赤石山脈を水源とする梅田川を越えると、太平洋側が丘陵地帯になる。天伯原台地である。

『天伯原は、豊橋市の南部、梅田川以南から太平洋岸まで広がる洪積台地で、渥美半島の基部にあたり、標高は太平洋岸が80m～60mと高く、北西の三河湾に向かって低くなり標高20mほどになる。天伯原の形成は梅田川以北の高師原よりも古く、原型面はほとんど浸食され、波浪状の台地となっている』

(豊橋百科事典より)

#### ②富士山を遠望

富士見校区はその天伯原台地の西端に位置する。標高約30mから50mと市中心部よりも高いので、豊橋祇園祭の花火はやや下に見え、空気の澄んだ季節には、市街地や蒲郡の夜景が美しい。また、校区名の由来となった富士山が遠望できる。富士見校区から富士山までは、東北東に約150kmある。

### (2) 富士山の見える町

#### ①富士山への思い

『富士見』という地名は日本全国に存在する。市名、町名から坂の名など、200以上を数える。やはり富士山が見えることに由来すると思われるが、地元の通称『〇〇富士』を対象としている地域もある。それだけ、『富士山』は日本人にとって特別な山なのであろう。東京では『富士見坂』と呼ばれるところが23か所も存在し、江戸時代から、富士山が見えるところが好まれていた証拠であろう。

豊橋市内には、他に南大清水町字富士見(一部が富士見校区に編入)と富士見町がある。

校区名を『富士見』と決めたのは、全国47都道府県すべてからの出身者が住む校区民の多数意見によるもので、ここから見える富士山に対し、出身地で見ていた富士山を思っているのかも知れない。

#### ②富士見展望台

富士見校区において富士山を望むのに最適な場所は、街区公園として造られた富士見台第四公園の富士見展望台がお勧めである。空気の澄んだ季節の夕暮れ時などは、西日に反射する富士山の荘厳な姿が遠く豊橋技術科学大学の上に見られる。



富士見展望台

富士見校区にはじめて来た人からは、「本当に富士山は見えるのですか?」と聞かれるが、そんな時は「もちろんです。」と答え、住民アンケートでも人気の高かった富士見展望台をお勧めスポットとして紹介している。



富士見展望台から見える富士山  
富士見校区 本島寛一氏撮影

## 2 土地のようす

### (1) 市内有数のニュータウン

#### ①レイクタウンとレイクヒルズ

富士見校区は大清水・老津・高豊校区と接している。県道東赤沢植田線（富士見街道）をはさんで、北西側富士見台1～3丁目（通称レイクタウン）と南東側富士見台4～6丁目（通称レイクヒルズ）に大きく分かれる。

レイクタウンには造成前には、小学校東側辺りに沼地があったと言われ、全体の地形は、富士見小学校付近を底に周辺部が盛り上がったすり鉢状である。レイクヒルズは富士見街道を頂点に東の『西の川』に向かって下がった地形をしている。

#### ②ニュータウンの誕生

レイクタウンは開発行為として、レイクヒルズは区画整理事業として宅地造成工事が行なわれた。それぞれ手法は違うが、明海地区産業基地に進出する企業の従業員のための優良住宅地として造られた。そのため校区内は

ほとんどが宅地である。

昭和50年に第1次分譲が開始された。1区画内に1台分の駐車スペースが先に造られていた。それから30年が経ち、現在では一家に2台以上の自家用車保有が普通になってしまい、駐車場確保に苦勞しているが、当時としては画期的な宅地だった。

#### ③田園地帯と住宅都市の融合

このあたりはもともと、戦後の開拓によって開かれた土地で、周囲には畑が多く、主にキャベツ、白菜、大根、カブ、ブロッコリ、葉タバコ等を栽培し、ビニールハウスを使った施設園芸も盛んで、ミニトマトなども作られている。また、酪農も行われており、牧草地も見られる。航空写真でみると作物の違いがまるでパッチワークのようである。その中に、富士見校区は存在する。田園地帯とニュータウンの融合である。

今は豊川用水が通っているが、高台のため以前は水の確保に苦勞した。そのため、農業用ため池も多く見られる。

### (2) 万場調整池

#### ①平地のダム

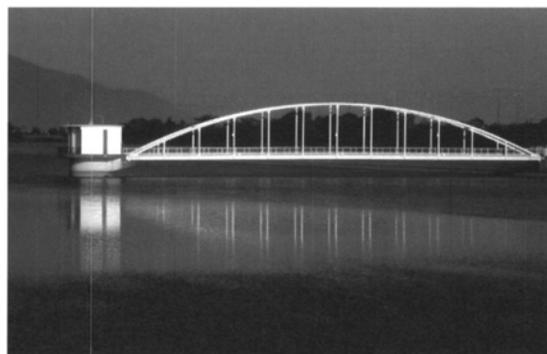
主に農業用水として使われている万場調整池ばんばちようせい池は高豊校区だが、レイクタウンの南、レイクヒルズの西隣に位置する。



万場調整池と富士見校区

豊川総合用水事業により造成された平地のダムで、砂の層の上に合成ゴムシートやアス

ファルトで覆った『表面遮水壁型フィルダム』である。最大500万 $\text{m}^3$ の水を蓄えることができる。これはナゴヤドームの4倍強にあたる。広大な水面に取水塔がチョココンと見えるだけなので、実感がわきにくいですが、その面積はなんと豊橋総合動植物公園にも匹敵する。



広い水面のワンポイント 取水塔

豊川の水量が多いときに豊川用水東部幹線水路から取水し、水道・工業用水は水面に突き出した取水塔より豊橋南部浄水場に送られている。農業用水は、池底から再び東部幹線水路にもどされ、渥美半島の農業に貢献している。

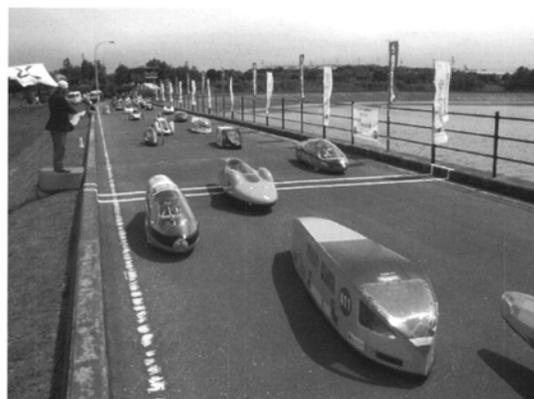
また、誰もが貯水量を簡単に見ることができるので、渇水時には節水の目安にもなり、水量が回復すれば、ほっと一安心もする。冬場には渡り鳥が見られる。

## ②お勧めスポット万場調整池

万場調整池を上空から見ると陸上競技場のような形をしており、豊橋南部浄水場の取水塔が広い水面にワンポイントとなって突き出ている。周囲には緑地帯があり、いろいろな野菜の形をしたアスレチック遊具が1周3.3km遊歩道に沿って数多く存在する。豊川用水の水の旅を模した親水公園や『水の展示館』、ロング滑り台のある児童公園など、子供から大人まで楽しめる校区住民の憩いの場であり、健康づくりの場にもなっている。

近年はエコカーチャンピオンシップ運営委員会主催の、バッテリー自動車によるエネル

ギー管理技術を競う、「豊橋エコテクノレース」(毎年6月第1土日開催)の会場としても全国に知られている。国内の有名企業、大学、高校、さらにファミリーなど多くのチームが知恵を絞り、ユニークな車体で果敢に省エネに挑戦している。



豊橋エコテクノレース スタートの様子

万場調整池も人気の高かったお勧めスポットである。

『レイクタウン』の名前の由来は、すり鉢状地形の中心にあった沼地によるとか、宅地造成時にはもう既に万場調整池の計画があり、その規模の大きさを湖にたとえて付けられたとも言われている。

嵩山池上池・池下池は老津校区になるが、こちらも富士見校区に隣接し、近年、親水公園として整備が進んでいる。

## 3 気候のようす

### (1) 温暖な気候と季節風

#### ① 厳しい季節風

豊橋市内でも南部に位置し、太平洋の黒潮の影響で年間を通して温暖で、降雪は少ない。積雪はきわめてまれであるが、平成17年(2005)12月に全国を襲った豪雪は富士見も例外ではなかった。また、高台のため『伊吹おろし』と呼ばれる冬の季節風は非常に厳しく、他の地方の出身者はこの強風に驚き、東

北・北海道や日本海側出身の人でもこの風の冷たさを訴えている。

## ②季節風とタクアン漬け

この近辺では昭和40年代頃まで、冬の乾燥した北西風を利用し、タクアン漬けに使う大根の風干しが見られた。ハザカケと呼ばれる、細い丸太で組まれた干し場は子供たちの冬の遊び場だった。最近では、自家消費用と思われる少量の大根をガードレールなどにかけて、干している光景が見られる程度で、往時がしのばれる。

## (2) 暴風雨

### ①竜巻被害

太平洋に近く高台のため、台風による暴風雨も直撃する。

平成6年(1994)9月29日には台風26号による竜巻が校区を直撃し、校区内の住宅や小学校にも被害を及ぼした。

竜巻は午後5時半ごろ、富士見台3丁目から1丁目にかけて通過した。台風の強い風雨の影響も含め住宅164棟が、屋根瓦を飛ばされるなどの被害を受けた。また、割れたガラスなどにより子どもを含む7人が負傷し、治療を受けた。



台風26号、竜巻被害を伝える新聞

### ②不安な一夜

校区住民20世帯76人が富士見校区市民館に避難した。また、校区の一部が停電になり、

情報が得られず不安な一夜を過ごした世帯も多かった。

停電になった家の人は「家の前に物置が飛んできて、それをニュースのテレビカメラが目の前で取材しているのに、そのニュースそのものを見ることができず、校区がどんな様子なのか分らず不安だった」と当時を振り返った。

その後平成11年(1999)にも豊橋を竜巻が襲い甚大な被害をもたらしたが、富士見校区で竜巻と言えば平成6年のものを指す。

## (3) 富士見の四季

住宅地であるが、そんな中にも見渡せば四季を探することができる。

**春** トヨタ社宅、県営団地、公民館『ふじみハウス』に咲くサクラから始まる。街路樹や各家庭の庭木の新芽、草花、近隣のキャベツ、大根畑で咲く菜の花。空高く飛ぶヒバリの鳴き声。新しいランドセルが大きく見えるかわいい1年生がその中を登校する。



サクラ並木と富士見小学校

**夏** ちょっと早い盆踊り。お盆に帰省する人が多いので、毎年7月の最終土日に行われる。校区民の多くが楽しみにしている校区行事。木々の濃い緑が日差しをさえぎってくれる。万場調整池の公園では近所の友人と休日のひとときを楽しむ人々。親水公園で遊ぶ子どもたちの声が響く。

秋 運動会にお祭り。元気な声が校区内にこだまする。紅葉するナンキンハゼや、赤い実をつけるヤマモモの街路樹。庭先には立派な実を付けた果樹のある家庭も多い。

冬 落ち葉と北風。風で舞う落ち葉を袋いっぱい集めると、ナンキンハゼは、丸坊主。常緑のホルトノキがうらやましい。富士見でもクリスマスのイルミネーションを飾る家が増えてきた。元旦、未明には、富士見神社は初詣に訪れる人で賑わう。老若男女、まず氏神様にお参りして、よい一年の始まりを願う。

## 4 交通のようす

### (1) 校区内の交通

#### ①交通安全に配慮した街区

校区内は、レイクタウン、レイクヒルズそれぞれの周囲を一周するように道路が作られているが、内部に入ると、T字路が多く、一旦停止が設けられており、必然的に自動車の速度を落とさなければならないような街のつくりになっている。また、U字型に街区が形成されて、住民のプライバシーを守る効果や、慣れない人には分かりづらいので外部からの不審者の侵入を心理的に防ぐ効果も期待できる。

#### ②公共交通機関の課題

公共交通機関としては豊鉄バス・レイクタウン線が朝6時から夜9時まで、1日あたり28便（休日は26便）運行されている。豊橋鉄道渥美線大清水駅～レイクタウン～レイクヒルズ～大清水駅7.4kmを約19分で結び、通勤通学の足として活躍している。住民からは増発や、最終便の変更、停留所の増設などの要望の声も聞かれる。特にレイクヒルズ側は入り口までしかバス路線がないので、車を運転しない人には不便を感じている人が多い。

#### ③『フリー乗降バス』の検討

そういう要望を受け、市では、他の自治体

で導入が始まっている、『フリー乗降バス』の導入を検討している。公共交通機関の活性化のため、まず富士見校区で試して、結果が良ければ他の地区にも広げていきたいと考えている。

#### ④交通安全設備

道路網は、市道東赤沢植田線（富士見街道）と市道伊古部老津線が校区内で交差し、主要な交通路となっている。この交差点と、レイクタウン（1～3丁目）、レイクヒルズ（4～6丁目）のそれぞれの入り口交差点に信号機が設置されている。その他、小学校北側の道路は校区民だけでなく、通り抜けの車も多いので、ここには押しボタン式の信号機が設置されている。また、交通量が特に多く、大型車もよく通る富士見街道には歩道橋が1基設置されており、レイクヒルズから通う小学生の安全を確保している。

### (2) 他の地区への交通網

#### ①通勤道路の整備

富士見校区から明海地区や国道259号線田原方面への接続がスムーズではない。この方面にある工場に勤める従業員が校区内には多数住んでおり、通勤時間帯には、さほど広い道路を通行することになる。運転者自身の交通安全意識の向上は当然であるが、道幅の拡幅等、行政側の対応も期待したい。

#### ②着工中の道路整備に期待

渥美半島南部を走る国道42号線とはスムーズに接続されており、表浜（太平洋）側の田原方面はもちろん、浜松方面に行くのにも大変便利だ。

国道23号線豊橋バイパス大清水インターの開通により、豊橋西部、蒲郡、さらに東名高速音羽蒲郡インターへの利便性が向上した。バイパスの全線開通で富士見校区の交通網はさらに充実するであろう。



## 子どもの安全を守る優しい目

「おはよう」満面の笑みで小学生に声をかける。小学生も大きな声で応える。毎月10のつく日と交通安全運動期間中のおなじみの朝の風景である。

両角智子さんは高齢者交通安全指導員として、富士見郵便局前の横断歩道で小学生の通学時間に安全指導にあたっている。前任者の途中退任を受けてはじめたこの活動も平成18年で8年目に入った。「自分より背の小さかった子が、もう、見上げるほど大きくなっちゃった」とうれしそうに笑う。

小学生だけでなく、この時間帯にこの横断歩道を使う大人たちにも

「ハイ、手を挙げて！！」

と声をかけている。

かけられた大人も両角さんのことばならと照れ笑いしながらも従っている。また、自動車の人にも「安全運転でいってらっしゃい」の気持ちを込めて笑顔で会釈をしている。

「小学生の通学時間帯は、車の人も速度を落としてくれる。それがすごくうれしい」

両角さんは常に笑顔を絶やさないが、危険なことをした子供にはきびしい。その場で、命は大事にきなさいときちんとしかる。子供たちも両角さんのことばを素直に聞く。だから、両角さんはまた子供が好きになる。もちろん、小学生も両角さんが好きで、中学生や高校生にも両角さんのファンは多い。



## 富士見にモアイ像?!

富士見街道レイクタウン入り口交差点の一面に人の顔をした彫像がある。高さ1.2mから2mぐらい。全部で5体が富士見校区の番人のように立っている。校区内ではこの「モアイ像」の存在はよく知られているが、そのいわれとなると校区の人も案外わかっていない。そこで、校区史発行に際して、編集委員会を調べてみた。

まず、同場所に記念碑を設置している、総合開発機構に伺ってみたところ、「詳しい資料はないが、中学校の生徒さんの『造形バラダイス』出品作を譲り受けた」ということを教えていただいた。近隣の学校にお問い合わせしたところ、高師台中学校美術部の生徒さんの作品であることがわかった。

当時、同校美術科教諭で部の顧問として指導にあたり、現在は彫刻家として活躍の松下元昌先生から「レイクタウン工事完了の記念に」とお話があり、生徒の作品が未永く残るのならばうれしいこと」ということで、この場所に設置されたとのこと。さらに先生にこの作品の意図をお聞きしたところ「見た人がそれぞれに自由に感じていただければ、それで作品が生まれます」という、ご回答だった。

作品にはタイトルもなく、作者名もなく、校区の人は勝手に「モアイ像」などと呼んでいたが、先生のお話をお伺いして、それはそれでよかったのだとわかった。「モアイ像」も決して出しゃばるのではなく何気なく富士見の風景に溶け込んでいた、ということだ。

この作品を作った生徒さんたち。こっそりと「モアイ」に会いに来てくださいな。

## 第2章 歴史と生活

### 1. 富士見校区の歴史

#### (1) 富士見校区のむかし

富士見校区エリアの土地は、人が住むような土地ではなかった。昭和20年、戦後の農地開発により開墾され、さらに昭和50年からの住宅専用地域として大規模な土地造成工事のため、土地の掘削が行なわれた。その際に貝塚や古墳などこの土地に、大昔に人が住んでいたとする形跡は発見されていないが、古窯址群は見つかっている。近隣校区を含めたこの地方全体の歴史を探ってみた。

#### ①原始時代

富士見校区は、渥美半島の付け根のやや南方に位置する。

渥美半島の骨格となっている地盤は、海岸底でできたチャート（※1）や凝灰岩、それに陸地から運ばれてきた土砂が海底に積もってできた粘板岩や砂岩から成り、いずれも非常に硬く割れやすい地盤である。この地盤の上に、洪積世（60万年前～2万年前）時代に、川や海が運んで来た土砂が堆積して出来たのが、渥美半島の台地である。これらの作用でできた台地は、最高海拔約70mの高さを有しており、海食崖（海岸線の後退により出来た崖）と呼ばれている。

※1 チャートとは非結晶質の無水珪酸から成る岩石で化学作用によって沈殿堆積したもの。

以前の建設省の調査報告によると、「明治11年の地籍図と昭和45年の海岸調査の結果を照らし合わせ、高塚の海食崖域で年間40cmほ

どの速さで侵食されている」との報告があり、さらに平成18年5月16日付け中日新聞社報では「ここ30年ほどでは年間最大167cm侵食された場所もある」とも報告された。

#### ②古代前記

豊橋市では、縄文時代早期～晩期末に至る数多くの遺物が発見されている。富士見校区に隣接する伊古部町からも縄文晩期と考えられる石鏃が<sup>やじり</sup>発見されていて、富士見校区周辺にも縄文人が生活を営んでいた事は事実である。

その後の弥生・古墳時代の形跡を示す遺跡は発見されていないが、伊古部地区に「大塚」という地名がある事から、これが古墳に何らかの関連があるのではないかと考えられる。

#### ③古代後期

豊橋は当初、安曇氏（※2）を中心とする部族によって治められていったとされており、豊橋市の古名「飽海」も安曇氏に由来するものであり、渥美半島の呼称は元々「アクミ」であった。

※2 弥生時代以降にこの地域に来住した民族として海洋部族の安曇族の存在が、古文献によって知られている。

安曇族は、元来南方より太平洋の暖流に乗ってわが国に渡来したものと思われ、早くから西は九州地方の沿岸に居住していたが、後に瀬戸内海を経て東進し、熊野灘を通過して伊勢・伊良湖付近より現在の豊橋地方まで進んだと考えられている。

大化の改新以前の東三河地方は「穂国」と呼ばれ、大化の改新以降「三河国（西三河）」と統合されて「三河国」と呼ばれるに至った。

#### ④奈良・平安時代

東三河は宝飯・八名・渥美の三郡から成り、郡の下にはいくつかの郷が置かれ、基幹産業は農業で、約千人前後の人々が口分田を耕していたと考えられている。その他、古来より養蚕・織物業も盛んであったとされる。

なお、近隣では旧田原町の大アラコ古窯址や、旧渥美町の伊良湖東大寺窯址などに見られるように、窯業もこの地方の産業であった。

増基法師の紀行文「いほぬし」では『高師山にてすゑつき造る所と聞きて、ただならぬ高師の山のすゑ造り、物思ひをぞやくとすと聞く』とあり、梅田川流域の地域で古くから陶器製造が盛んであったようである。

この地方にも、伊勢神宮をはじめとする有力神社により多くの神社領が設置された。高豊地区を通過する古代の交通路として、『伊勢街道』がある。収穫米は頻繁に伊勢に運搬され、そのために伊勢街道は渥美半島の南岸を伊良湖から白須賀へ通っていた。しかし残念ながら当時の伊勢街道は、1707年の宝永大地震（※1）で海中へ沈んでしまった。

※1 宝永地震：1707年10月28日に南海および駿河トラフを震源域として起きたM8クラスのプレート境界地震で、各地に多大な被害を及ぼすとともに、この地震直後の12月16日には16日間に及ぶ富士山の宝永大噴火に続く。

#### ⑤鎌倉・室町・江戸時代

鎌倉・室町・江戸時代の間、この地方は幕府から指定された『天領』と呼ばれる支配地となった。また、『入会』と呼ばれる村民が特定区域の山林原野において、当時の生活に必要な薪・秣（馬や牛などの飼料とする草）・刈敷（作物などの根元に施すための刈り取った草）などを採取する慣行があり、江戸時代には東・西伊古部村、野依村等で入会地の利権をめぐる論争が起きている。

#### ⑥明治・大正時代

明治38年（1905）日露戦争終了後、消費人口と関連企業の進出などによる発展経済効果を期待し、豊橋市及び周辺地域の必死の誘致努力が実り、沼津、浜松、岐阜を押え、明治41年（1908）高師村に旧陸軍第15師団が誕生する事になった。誘致の努力の背景には、高師、二川、高豊、老津の4ヶ村に渡る広大な高師天伯原の地形が、陸軍演習地として格好の場所であったようである。現富士見校区は、この一大演習場の西南の一隅に位置している。

#### ⑦昭和時代

レイクタウンの直ぐ北から渥美線の大清水駅南側にかけて、軍用飛行場が作られた。（未完成のまま終戦となる）

レイクヒルズ5丁目辺りには砲撃演習の監視塔が建てられ、実弾による演習が行なわれた。一度演習が始まると、大清水―赤沢線などの主要道路は鎖で閉鎖され、付近一帯は立ち入り禁止となって、畑仕事ができず、農民から陸軍に対して苦情を訴えたことも度々あったようである。

富士見街道の歩道橋の南には、兵士が方角を知る目印にしたと言われる「なぎなたの松」があり、昭和28年（1953）に石碑が建てられた。



※碑文  
「召され征く友と名残り  
を惜しみつつ別れ告げに  
志なつかしの丘」

なぎなたの松（昭和50年頃撮影）



現在は石碑のみ残り当時の面影はない

この「なぎなたの松」は太平洋戦争当時、赤沢村の人々が出征していく兵士を見送った所でもあり、兵士たちはここで村人と別れを告げ、大清水や老津の駅から渥美線の電車に乗って遠い戦地へと赴いていった。

⑧戦後の開拓

昭和20年（1945）11月、戦争終了後の食糧難に対して食糧増産を目指した「緊急開拓事業実施要綱」が閣議決定され、国の委託のもと、農業開発営団により開発が進められ、県の就農相談所により開拓希望者が募集された。その結果、名古屋地方出身者を中心としたほとんどが農業未経験者の入植者による大規模開拓が始まった。

開拓当初は、マツやササ、ツツジしか育たない強酸性土壌や水不足という事情もあり、営農は困難を極め、離農者も多くあった。

入植者は開拓のための訓練を受けた後、老津町池上の旧陸軍兵舎で約1年間の集団生活を行いながら、配分された1.2ha〔12,000㎡〕ほどの土地の開墾に従事した。その後、農業開発営団あっ旋の住宅を購入し、開墾地付近に自分たちで家を作って移り住んだが、電気も水道も無く、食べ物にもこと欠くような厳しい生活を余儀なくされた。

【入植された方の話】

入植した年にジャガイモやサツマイモを作ったが、肥料も水も無くて、蒔いた種イモ程度の収穫しかなかった。食べるものにも困り、何度も農業をやめようかと思ったが、周りの農家を訪ね歩いて作り方を教えてもらい、もう一度挑戦してみようと思った。

肥料が無いという事で、大八車（※1）を2人以上で引いて、1日かかりで街まで行って糞尿をもらって来たり〔当時は通常的に人間の排泄物を畑の肥料にしていた〕、海岸へ

行って海草を集めて肥料にもした。水も、高山池や藤ヶ池まで汲みに行った事もあった。

入植して2年目にはやっと自給自足できるようになったが、採算が取れるようになったのは、5年くらい後の事だった。

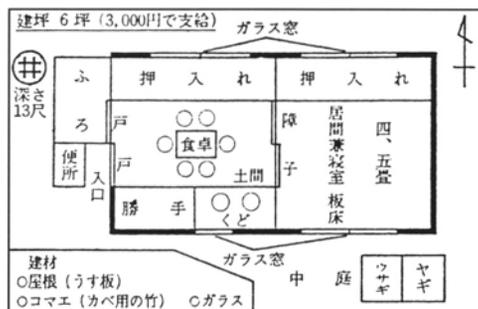
※1 人力8人分ということで代八とも言われ、大きな長方形の板に直径約1mの木製大車輪を二つ付けた簡単な台車



開拓者の共同作業で麦の手入れ 昭和21年頃  
(後方は富士見台2丁目近辺)



富士見街道歩道橋西 昭和23年頃  
収穫のサツマイモが見える



入植初期の住居  
(南大清水町富士見363番地 酒井喜文旧宅)

開拓者の入植当時、開拓農家の農業経営の安定化には、飯米確保に必要な水田開発が先決課題とされた。当開拓地は、洪積台地より成るが地下水は比較的高い位置にある。「大

清水」の地名からも推察されるように、台地の侵食低地は湧水による湿地が形成されており、飲料水程度を得る事は容易であったが、開田に必要な水量には及ばなかった。

開拓地では昭和26年、豊橋地区開墾建設同盟会を結成。豊川農業水利を取り入れた水田開発を同盟会の重点目標として、開拓農協・県関係機関と協力して国に働きかけた。しかし、全面導水はその後昭和43年（1968）6月であった。このことからわかるように、当時開拓地は、その開墾において、畑地開発として出発せざるを得なかった。

こうした状況の中、入植者と関係機関の努力にもかかわらず開墾地を去る人もあり、昭和20年の入植者141名のうち4～5年後には121名が開墾地を個人取得した。即ち20名の入植者の姿がなくなっていった。これは定着率85.8%であって、豊橋地区全体の定着率89.5%に比べて低い。

しかし、その後第2次入植、第3次入植、昭和30年（1955）の第4次入植とつぎつぎに新規入植が行なわれ、この昭和30年を以って当開拓地の開墾可能地はほぼ配分され開拓農家も定着した。

## 2. 富士見校区のあゆみ

### (1) 開発から富士見校区発足まで

#### ①開発の目的

昭和50年頃から、豊橋港臨海に誘致が決まっていたトヨタ自動車(株)をはじめとする企業の従業員向けベッドタウンとして、官民一体の(株)総合開発機構により開発されたものである。

#### ②開発の状況

土地の買収は昭和46年（1971）頃からはじまり、地主の協力が得られ順調に開発が進み、昭和49年（1974）「豊橋レイクタウン」の住

宅地造成工事が始まった。レイクタウン建設に伴い10戸の農家が他の地へ移転した。そのなかには耕地の多くを失って、離農する人も少なくなかった。

昭和51年（1976）小学校建設予定地の周りから一戸建て住宅の入居が始まった。人口増加に拍車をかけたのは、大手の住宅メーカー数社によりその分譲地が買い取られ、そこに一戸建て住宅が建てられて積極的に売り出されたことと、昭和55年（1980）には開発地域北側に5階建て集合住宅（トヨタ自動車(株)富士見社宅21棟620世帯入居可能）が建ち入居が始まったことによる。



富士見校区開発前のようす



富士見校区開発後のようす

#### ③富士見校区発足まで大清水校区に所属

レイクタウンの住宅地造成地域は、土地の町名地番割でいくと、大清水校区、老津校区、高豊校区にまたがって開発されたが、レイクタウン入居者は当初全て大清水校区に所属していた。

#### ④町内会について

通常新しく町が形成されるとボランティア団体としての町内会が結成される。町内会の

基礎組織は10～20世帯からなる組である。組の代表者を組長とし、その選任は1年任期の輪番制としている。町内会には会長以下の役員が決められ、豊橋市では町内会長のことを町総代と呼称している。



富士見校区定例総代会

#### ⑤町内会結成の目的

町内会結成の目的を整理してみた。

- 町内会のことを「自治会」と呼んでいる地方は多いが、文字通り自分の町は自分達で治めるといふ住民自治の活動を円滑に行なう目的のため。
- お祭りや敬老会など町内会で行事を企画運営し、みんなで盛り上げ「このまちに住んでよかった」と、皆が思えるように町内を活性化する目的のため。
- 町内住民と市役所、警察、保健所といった行政機関等との情報伝達を円滑に行なう目的のため。

特に1つめの自治活動を類別すると、

《防犯活動》犯罪を無くして安心安全な町づくりをする。(青少年健全育成を含む)

《交通安全活動》交通災害から町内を守る

《防災活動》火災・大地震・暴風雨等の災害から町内を守る。

《環境を守る活動》530運動・資源回収等町内の環境を守る。

の4点に分けることができる。

以上町内会結成の目的は大きく3つに整理することができた。町内活性化の大動脈は、住民同士のコミュニケーションであることを考えれば、全ての町内活動を活発化させるこ

とが重要である。

#### ⑥レイクタウンに新町内会発足

住民が町内会結成の必要性を感じるひとつに、豊橋市が住民への情報伝達の手段として月2回発行している広報紙の入手が挙げられる。通常広報誌の配布は、豊橋市が町内会に委託料を払ってその業務を委託している。町内会を結成しなければ行政からの情報が得られないという認識が、町内会結成を促進させる背景にあると思われる。

こうしてレイクタウンに昭和56年(1981)4月1日から6町内会56組558世帯が発足した。

当然、この当時はレイクタウン側(富士見台1～3丁目を中心とした区域)の町内会発足であった。

町内会名	組数	世帯数
レイクタウン1区	5	42
レイクタウン2区	9	116
レイクタウン3区	8	110
レイクタウン4区	9	40
大清水社宅1区	10	140
大清水社宅2区	15	140
合計	56	588

この町内会は当初大清水校区総代会に所属し、その元で活動することになった。昭和58年(1983)に県営住宅(7棟120世帯入居可)が建ち、一戸建て住宅も次々と入居が決まり、レイクタウン内はさらに組数が増え、その後富士見小学校誕生と同時に、富士見校区総代会の発足を迎えることになる。

#### (2) 富士見校区発足から現在まで

##### ①富士見校区総代会の特徴

富士見校区の大きな特徴として次の4つが上げられる。

- 住居専用開発された大規模な新興住宅地

であり、このほとんど住宅地のみで「富士見」という校区を形成している。

- 通常豊橋市で呼ばれている1つの町内会単位を、富士見校区では“区”と呼んでいる。
- 今では17区まで規模が拡大しているが、富士見校区では校区総代会設立当初より区での単独活動を取らず、校区全体として年間行事などの活動を行なって来た。従って、財政面も含め全て校区総代会が運営している。
- サラリーマン世帯が多く、校区総代会として事務員を2名採用し、校区役員の職務の軽減を図っている。

②発足時の組織構成など

富士見校区の発足は、昭和59年（1984）4月1日である。昭和56年4月1日にレイクタウンに町内会が発足後、丁度3年後のことである。発足当時の総代会組織としては、12町内会96組927世帯であった。

町内会名	組数	世帯数
県営区	5	60
1区	5	53
2区	9	129
3区	9	108
4区	10	75
5区	12	124
6区	7	63
7区	9	50
9区	1	5
トヨタ1区	9	78
トヨタ2区	10	89
トヨタ3区	10	93
合計	96	927

校区総代会の役員構成と組織運営は、町内会規約により、

- ・校区総代会長 1名
- ・副会長 2名
- ・会計 1名
- ・監事 2名

が選任される。

町内会の財政は、校区総代会の財政と一本化され、一世帯町費を月400円（平成18年度現在）で運用されている。

町内行事は全組長を、各行事を運営する各委員会に配属し、委員会は担当総代と配属された組長により運営実施される。

コラム【初代校区総代会長 西村 昇】

戦時中は陸軍の演習地だった周辺この土地は、終戦後畑や田に開墾され、お米・麦・サツマイモ・スイカ・みかん等が栽培されていました。

レイクタウンの開発が始まった昭和五十年頃には耕地にならない道端や湿地には、背丈位のマツ・ドングリ・山ツツジ・花菖蒲たくさんではなかったがコブシの花も咲き篋もいっぱいはえていました。

今はほとんど見かけませんが、キツネ・イタチ・雉・トンビ・ウズラ・蛇・かえる・ヒバリ・野ウサギ等をよく見かけたものです。

小学校の辺りを、イタチがウサギを追いかけていたなど、考えられないできごとです。今では住みよい町になりました。

どこの家も綺麗で、庭も良く手入れされて、530の日には皆出て、排水溝も公園もきれいな明るい町になりました。

朝私の家の前を大勢の小学生が、学校へ元気に登校する姿をみるにつけ、みんなが幸せになってくれることを祈るとともに、富士見の町が良い故郷になることを念じております。

③町名変更

昭和49年総合開発機構の『開発行為』により宅地造成が始まり、現在では一大住宅地へと変貌を遂げている。現在の富士見台1～6丁目<sup>へんぼう</sup>は、初めから「富士見台1～6丁目」と呼ばれていた訳ではない。一方当初の地域の名称は、

- i 南大清水町字富士見

- ii 老津町字中原
- iii 老津町字嵩山
- iv 西赤沢町字深山

の3町4字にまたがっており多くの不便を伴っていた。この不便な状況を改善すべく、昭和59年に富士見校区総代会より豊橋市宛に「レイクタウン地区における新町区域の設定についての要望書」を提出し、昭和60年(1985)2月4日、富士見台1～6丁目が発生した。

④富士見神社の建立

校区発足当初から、校区の行事の安全遂行、郷土愛を深めたいとの思いから、氏神様としての神社建立の要望が強く、(株)総合開発機構から土地を借り受け、富士見校区西南の地に「富士見神社」が建立された。御神体は大清水神社から分社されたものである。

⑤ふじみハウス建設

校区住民のコミュニケーションの拠点として、それまでの校区市民館だけでは、需要に応じ切れなくなった為、新たに「ふじみハウス」(公民館)の建設が行なわれた。

建設に際しては、建設資金として、住民各世帯からの特別徴収及び多額の寄附により、平成5年5月9日着工、同年10月9日に竣工し、翌11月から一般利用を開始、運営規約も決められ、現在多くの方が利用している。

⑥校区総代会組織の変遷

発足時から校区の世帯数は増えつづけ、組織もその都度町名(区割り名)変更などの変遷を繰り返した。平成12年から現在まで、17町内会の体制を保持しており、平成17年度現在17町総代、211組長、2,260世帯で構成されている。

町内会名	組数	世帯数
富士見台1区(1丁目)	8	113
富士見台2区(2丁目)	9	132

富士見台3区(2丁目)	9	112
富士見台4区(2丁目)	13	132
富士見台5区(2丁目)	12	136
富士見台6区(3丁目)	7	74
富士見台7区(3丁目)	9	113
富士見台8区(3丁目)	9	110
富士見台9区(4丁目)	13	139
富士見台10区(4丁目)	15	155
富士見台11区(5丁目)	14	169
富士見台12区(5丁目)	14	171
富士見台13区(6丁目)	9	123
富士見台14区(6丁目)	12	172
富士見台15区(トヨタ社宅)	26	174
富士見台16区(トヨタ社宅)	21	126
富士見台17区(県営)	11	109
合計	211	2,260

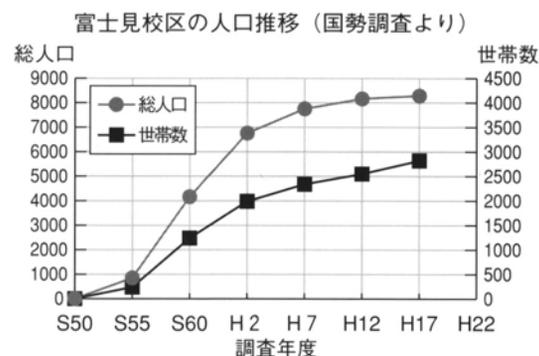
⑦住民の町内会への加入状況について

富士見校区町内会への加入状況については、平成17年4月1日現在で81%の世帯が加入している。この数値は豊橋市全体の平均加入率76%に対して、高い加入率を示している。

⑧校区人口の推移

昭和50年(1975)にレイクタウンの第1次分譲が開始されて以来、世帯数は急激に増加した。平成17年現在では、富士見校区には2,822世帯8,288人の人たちが住む大住宅地である。

人口の増加を、「繁栄・熟成・減衰」の3つに区分すると、富士見校区は下記グラフの人口増加率の傾向から見て、既に繁栄期を過ぎ、熟成期を迎え始めた事が判る。



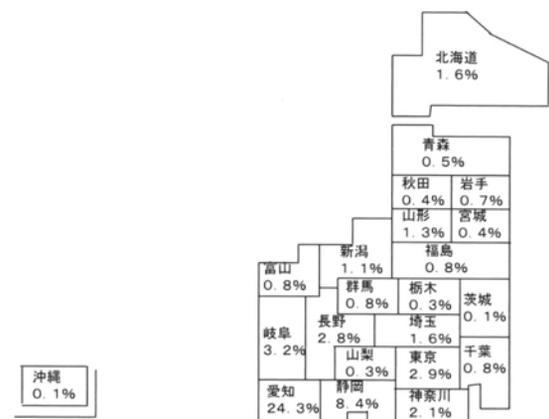
### ⑨校区住民の出身地

富士見校区はごく最近の開発によって住宅地となったので、多くの住民の出身地は富士見校区外である。平成17年7月に取得した全住民対象のアンケート集計の結果、非常に興味深い傾向が示された。

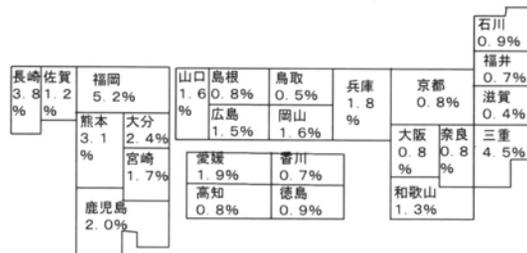
愛知県内の他地域からの転入者は24.3%であり、愛知県外からの転入者は75.7%であった。また、驚く事に出身地は全47都道府県にわたっていた。さらに海外からの居住者も1.8%も存在しており国際色をも有している。これら出身地別データを下記に示す。

順位	出身都道府県	率	地方	率
1	愛知県	24.3%	東北/北海道	6.8%
2	静岡県	8.4%	関東	8.5%
3	福岡県	5.2%	中部	45.8%
4	三重県	4.5%	近畿	5.6%
5	長崎県	3.8%	中国	7.7%
6	岐阜県	3.2%	四国	4.3%
7	熊本県	3.1%	九州地方	19.5%
8	東京都	2.9%	海外	1.8%
9	長野県	2.8%		100.0%
10	大分県	2.4%		

地元中部地方は当然トップであるが、次いで九州地方の出身者が群を抜いて多い。この傾向は就業企業先との関係と考えられる。



中部以北・含沖縄



中部以南

## 3. 富士見校区の活動

### (1) 富士見校区の行事

校区発足当初から富士見校区の行事は、町内会の基礎組織である組長を、お祭り・盆踊り・氏子・体育・敬老・社教の6つの委員会に振り分けている。その委員会の中で委員長・副委員長・会計の3役を決め、各委員会と行事担当総代が、その行事を企画運営している。このことは、校区の発足時の規約で決められている。

#### ①盆踊り

盆踊り大会は校区を代表するイベントのトップバッターとして、毎年7月の最終土・日の2日間開催され、住民の関心も高い。

参加率で調べると、校区内イベントで最も高い値を示した。

富士見校区以外の在住者からは、「富士見校区の“盆踊り大会”は近隣校区の中でも最も賑やかで活発に行なわれている」との声も聞こえる程盛り上がっている。



多くの住民参加で賑わう盆踊り

## ②体育大会（富士見校区運動会）

10月に行なわれる秋のお祭りや豊橋市で行なわれているスポーツフェスタ（全校区対抗スポーツ競技大会）などの盛りだくさんの行事との重なりを避け、まだ残暑の厳しい9月の第1日曜日に行なわれている。

富士見校区独自の競技種目として、グランドゴルフやストラックアウト、フリースローなどの競技を設けて盛り上げているが、近年では参加率や参加する年齢層に課題を有している。今後の体育委員会を中心とした運営建て直しに期待したい。



ストラックアウトに挑戦

## ③敬老会

富士見校区として独自に企画・運営されており、敬老の日の前の日曜日に行なうのが慣例となっている。

校区在住の70歳以上の高齢者を招待して行なわれる。最近の会場は大浴場と宴会設備の有る市内の健康ランドを利用し、喜ばれている。祝賀式典では宴会・かくし芸などの披露で大いに盛り上がる。祝賀会に出席出来なかった場合は、欠席者にも、記念品として紅白饅頭などが配布され、お祝いの気持ちを届けている。

## ④お祭り

毎年10月の第1日曜日があてられる。内容は朝9時富士見神社で神事を行い、その後山車・子どもみこしが町を練り歩く。その間お祭り委員のメンバーにより、子どもに菓子、大人にはお神酒が振舞われる。



子どもたちの創作みこしで町内を練り歩く

午後には、和太鼓演奏依頼先の高校生部活メンバーによる和太鼓の重厚な音色が富士見小学校に響き渡り、演奏後は、もち米4俵分の紅白餅と菓子などが投げられる。

## ⑤文化祭

毎年11月、文化の日に近い日曜日に、校区の文化祭として、住民の日頃の作品、書画・彫刻・手芸品・生け花・陶芸品などが校区市民館に展示され、終日多くの見学者の目を楽しませている。芸術の秋を彩る校区の文化的な行事となっている。

## ⑥七五三

毎年11月の第2日曜日に行われる。

盛装した7歳、5歳、3歳の子どもたちが保護者に付き添われ、富士見神社にお参りする。宮司がひとりひとりの名前を神前で読み上げ、健やかな成長を祈願する。氏子委員会が運営、接待に当たり祈願料は無料で、祈願した子どもには千歳飴が配られる。

## ⑦新年祭

元旦の零時を迎えると、氏神様を祭る富士見神社で新年祭の神事が執り行われる。新しい年がさらに良い年であるように宮司により祝詞があげられ、その後、厄年の神事が行われる。総代会長、厄年の人の参拝が終わると、鏡開きに続いて、一般の人の初詣が始まる。開運お守りの配布、お神酒、お汁粉の接待がある。例年800～1,000名もの人が訪れ、消防団富士見分団が整理に当たる。新年祭の準備、進行、接待は氏子委員会が担当する。

## ⑧成人式

1月成人の祝日の前日の土曜日に主催する事とし、地区新成人を対象に招待して富士見小学校で行なわれる。

式典では振袖や羽織・袴姿<sup>はかま</sup>の新成人の明るい笑顔が富士見小学校体育館にあふれ、新成人の代表者による誓いの言葉をもって、大人への第一歩を踏み出す。

厳粛に執り行なわれた式典の後は、小学校時代の恩師を招いて和やかにクラス会が開かれ、懐かしい思い出の時間を過ごす。このように新しい大人入りへの記念する日を地域として祝っている。

## (2) 富士見校区の自治活動

### ①防犯活動

#### 《防犯灯設置》

町を明るくする活動で、街路灯が校区発足以来住民の要望によって建てられてきた。現在、豊橋市管理の水銀灯と校区管理の街路灯が多数設置されている。

#### 《防犯連絡所設置》

豊橋警察署から校区総代会長を防犯連絡所班長として、各町総代に防犯連絡所が委嘱されており、各町総代宅に防犯連絡所の表示板が掲示されている。

#### 《子ども110番の家の設置》

学童の通学路や公園近くに「子ども110番の家」が17か所設置されている。

#### 《富士見校区安全なまちづくり推進協議会》

大阪の池田小学校の事件以来、聖域であったはずの学校が襲われる事件が続いたり、子どもたちが通学路で誘拐、殺害されるという事件が頻発している。その危機感から富士見校区では、平成17年1月から「富士見校区安全なまちづくり推進協議会」を立ち上げ、同時に軽ワンボックスカーを購入、青色回転灯を装備し校区を揚げて防犯パトロールや子

もたちの安全を守る活動を強化している。



校区で購入した軽四自動車

その結果、校区の街頭犯罪件数が、平成16年の59件から、平成17年度には37件（-37%）と大きく減少した。この減少は「青色回転灯を使っただけの防犯パトロールの成果である」と豊橋警察署の生活安全課は分析している。

### ②交通安全活動

交通安全環境の整備としては、校区総代会の要望により横断陸橋1か所、主要交差点3か所で信号機が設置されている。このように信号交差点が少ないのは、他校区と比べて、校区の中央を南北に走る主要県道である東赤沢植田線（通称・富士見街道）が校区内を通過する距離がわずか700mと非常に短いためである。

#### 《道路標識・ミラーの設置》

校区内の交差点は交通安全・防犯的配慮から、車のスピードが出せないようT字路中心で、十字路は数える程しかないよう道路が造られている。又、住民からの一時停止の道路標識・カーブミラーの設置要望は多く、平成17年度現在

一時停止標識：136か所 150本

カーブミラー：101か所 101本

が設置されている。

街路灯も多く設置されていて、防犯効果のみならず、交通安全効果のあることは言うまでもない。

横断歩道は学童の通学路を中心に設置してある。また、通学の児童が多く、道路がカー

ブしている危険な場所には信号機を追加設置している。

#### 《交通安全旬間》

年4回愛知県を揚げて行われる交通安全旬間には、校区の交通主要箇所<sup>（1）</sup>に約40本の交通安全のぼり旗を立てるとともに、校区の関係団体の協力を得て交通監視活動も随時行っている。

#### 《青空駐車対策活動》

平成12年校区住民の中に、青空駐車追放の気運が高まったため、校区では看板を掲示したり、ちらしの配布などの広報活動につとめてきた。青空駐車はかなり少なくなったものの、それでも時々「いつもあそこの車が止まっていて迷惑だ。火事があった場合、消防車が通れない」などの苦情が町総代の元に寄せられる。校区の青空駐車を無くす活動は今後も続けなければならない課題である。

### ③防災活動

#### 《自主防災組織の結成と活動》

豊橋市消防本部の指導により、平成12年に初めて校区に自主防災組織が結成された。

組織は富士見街道で2つに分け、富士見台1、2、3丁目を富士見第1部防災会、富士見台4、5、6丁目を富士見第2部防災会として、この2つの防災会の上に富士見校区防災会連絡協議会を置き、防災対策本部として富士見校区市民館が指定された。この自主防災会の役員は毎年度消防本部に登録されている。

組織として具体的に活動を開始したのは、平成14年4月に豊橋市が東海地震対策強化地域の指定を国から受けてからで、平成15年度には、校区17町内から組長1人ずつを選任し、17人からなる防災委員会を立ち上げ、各自主防災会の役員にあてるとともに、防災資機材の購入と管理点検、校区の防災訓練の企画運営を主な任務としている。

これにより、平成15年度以降は活動も活発化され、校区挙げての防災訓練も年に1度は開催されている。

#### 《防災資機材等の購入と備蓄》

豊橋市が東海地震対策強化地域に国から指定されたのを受けて、自主防災会に資機材購入の助成金を拠出したのを受け、この助成金を活用しながら公民館『ふじみハウス』の空地に防災倉庫を設置し、平成17年度までの3年間に、万一の防災時に備えて多くの備品を備蓄してきた。主な品目を下記に示す。

- 懐中電灯・ヘルメット・土嚢袋<sup>（2）</sup>・パールハンマー<sup>（3）</sup>・万能鉋<sup>（4）</sup>などの緊急処置用具
- 防水シート・簡易トイレ・毛布・担架・発電機・ローソクなどの救助や設営関連用具
- 鍋・ガスボンベ・燃料などの炊き出し用具
- 非常食・飲料水などの緊急食糧
- その他医療関連品

以上のように多くの備品が備わってきており、今後も引き続き整備と管理推進が求められる。

#### 《街頭消火器の設置》

校区として、街頭消火器を10世帯に1個を目標に、設置推進を図ってきた。平成17年度現在校区に設置された消火器は119基である。

### ④環境を守る活動

#### 《530運動》

豊橋市の530運動に参加する活動で、毎年5月30日に近い日曜日と10月末の日曜日に校区を挙げて公園を中心に大掃除を行っている。

#### 《リサイクル活動》

校区では、子供会と小学校PTA、中学校PTAの協力を得て、毎月1回（年間12回）また、近くの新聞店の協力による毎月1回（年間12回）の回収とをあわせ、合計年間24

回の資源回収を行っている。

#### 《ゴミステーションの管理と運営》

豊橋市長の委嘱するゴミステーション管理のための清掃指導委員は各町総代が兼務して行っている。ゴミステーションの数は現在114か所に指定され、ビンカンボックスは40か所に設置されている。

特に4、5、6丁目にあっては季節風が強く、ゴミステーションに置かれたゴミがすべて風で舞ってしまうことがある。平成15年にはゴミステーションの位置が見直され、飛散防止の目的のために、ネットをかぶせるなどの試行措置が町費によって自主的行なわれた。

その後の効果が確認され、平成17年度には豊橋市から富士見校区の全ゴミステーションに飛散防止用ネットが配布・設置された。さらに豊橋市全体でも市費によりネットの設置推進が図られている。

#### 《花壇の造成》

平成15年、町を美しくする活動として、富士見小学校東側の大清水第3公園に花壇を造成した。ニューレイククラブ（老人クラブ）のメンバーなどにより管理されて、町内の多くの人から喜ばれている。

#### 《ペットの糞公害に対する広報》

ペットの糞公害に対する苦情は多く、校区としては年に2・3回程度の広報活動をしているが、未だに改善されておらず、ペット飼育と地域環境維持との共存に関するモラルの改善が望まれる。

### （3）校区の情報伝達活動

#### ①行政から校区住民への情報伝達

豊橋市行政の健全な発展を図るため、豊橋市が月2回発行する広報誌などを、豊橋市から校区総代会が業務委託という形で、校区内全世帯に配布している。業務委託契約を毎年

度締結するという制度運用は、昭和50年代には既に執り行なわれていた。

この業務は、当初は校区全世帯数分の広報誌数量が校区総代会長宅に届けられ、そこから各町内会毎に数え分けられて、各町総代宅へ届けられ、更に各町総代は、組毎の数量へ分割作業後、各組長宅へ届け、最終的に、組長が各世帯へ配布するという仕組みで運営された。

この業務は、月初めと、月半ばの2回必ず行なわなければならない事と、豊橋市行政の情報伝達という重要な目的から、迅速な配布が要求される。

これらの要求に対し、現役サラリーマンの多い富士見校区総代会の現状では、スピードを要求される業務の円滑な遂行は困難を極めた。そこで校区総代会として、独自に専属事務員を採用して、豊橋市からの配布物や、町内会関連情報なども含め、専属事務員により校区の全組長宅に対し速やかに配布するようになった。これにより、各町総代の業務は半減し、行政から校区住民への情報伝達は円滑に遂行されている。

専属事務員を2名抱えており、日曜・祝日を除き午前9時から12時まで、交替で市民館内の町内会事務所に常駐し、情報伝達業務を始め、その他、地区住民の要望受付窓口、各種手続き、町内会関連各種資料作成・管理など校区町内会活動に重要な役割を担っている。

#### ②校区住民から行政への情報伝達活動

校区住民からの要望を大きく区分すると住民の活性化に関する校区全体としての案件と、地区自治に関する案件の2つに区分される。

向こう5年間の要望内容を列挙してみる。

【住民の活性化に関する案件】⇒市役所へ

○南部地区に南部地域図書館の建設

○南部地域に総合運動場の建設

○バス路線の拡大・見直し

#### 【地区自治に関する案件】

《防犯関係》⇒市役所や警察署へ

○街路灯新設

○少年の犯罪への警戒

○公園街路樹の剪定保守（見直し確保）

○児童通学路安全確保

《交通関係》⇒市役所や警察署へ

○街路灯、信号機、一時停止標識、横断歩道、カーブミラーなどの交通安全関連施設新設

○歩道新設、道路凹凸補修、側溝蓋増設などの交通安全確保

○青空駐車、逆行駐車の取り締まり

《防災関係》⇒消防署へ

○校区防災訓練の指導

○街灯・消化器の新設や保守

《環境問題関係》⇒市役所、警察署、保険所へ

○放置自動車や自転車の撤去

○ゴミステーションやビンカンボックスなどの運営管理について

○公園への花壇造成

○街路樹や公園樹木の剪定

○動物の糞害相談や死骸撤去要望

○深夜の暴走族や爆音取締り

以上のように、市役所や警察署・消防署などへ多くの要望を出して来た。

## （４）各種団体活動

### ①消防団（富士見分団）

消防団は、豊橋市消防本部から委託された特別地方公務員という立場で、私たち富士見校区全域の祭礼警備や昼夜のパトロール、安全啓蒙、また万一の場合に備えた消防訓練など豊橋市消防本部の地域部隊として活動している。団員は17名であるが、日常の仕事との両立を前提とするだけに、サラリーマン世帯

中心の富士見校区では、後継者育成に大きな課題を有している。また消防団の後継者問題は、富士見校区のみならず、市内全域的な問題となりはじめており、制度そのものの抜本的な見直しが必要な時期にきているようである。

### ②富士見校区女性防火クラブ

主に在宅主婦による“女性防火クラブ”が平成15年12月18日に20名で発足し、日常のきめ細かな防災広報や防災活動を行っている。代表的な活動として、万一の災害時に備えた非常食づくり体験や、救急救命講習会開催、備え付けの消火栓・消化器のペイント補修などがある。きめの細かい地道な活動を通じ富士見校区の安全をサポートしている。

このような活動が認められ、発足2年足らずで消防庁主催の、全国選抜女性防災団体の放水競技大会へ愛知県代表として選ばれ、平成19年10月に神奈川県横浜市で行なわれる全国大会に参加する栄誉を受けている。この大会は、豊橋市が愛知県代表として選手を送るもので、その選手選考を一校区の富士見校区女性防火クラブに委ねられたという事は、選手選考の主管である豊橋市消防本部が、「同クラブの組織力と、結束力及び日頃の活動」を高く評価しているからである。

平成17年度から、消防本部員指導のもと基礎訓練が始まっている。富士見校区としては、この機会をきっかけに、更に校区住民の防災意識高揚に繋がればと願っている。



全国大会に参加される女性防火クラブの皆さん

### ③ニューレイククラブ

ニューレイククラブは、60歳以上の高齢者で構成される。会員数は平成17年末現在122名と規模も大きいですが、その活動内容や地域への貢献度にも大きなものが有る。活動の代表的なものは日常の公園清掃や遊具点検、小学生児童たちの登下校時の安全確保の為に監視活動など、子どもたちの安全の為にその活動内容や範囲はパワフルである。



小学生の下校時警備するニューレイククラブの皆さん

今後の高齢化社会にあって、このように活発に活躍する高齢者の皆さんの姿は頼もしく、そして高齢化社会に向けた住民としてのあるべき姿の1つを映し出してくれているのではないだろうか。

## (5) さらなる校区発展に向けて

### ①校区ホームページ開設

富士見校区は、先に述べたように住宅地開発・発売以降、人口増加率推移から見ると確かに熟成期を迎えているのかもしれない。

またアンケートの結果では世帯主の約83%が現役で仕事に従事しており、さらにその内の約97%が一般的なサラリーマン世帯である事が明らかになった。

これは、富士見校区としてはまだまだ働き盛りの世帯主を中心とした家庭が中心を成しており、仕事と家庭さらには、仕事と地域活動の両立を求められている家庭が殆どである事を裏付けている。

このような環境の校区として、タイムリー

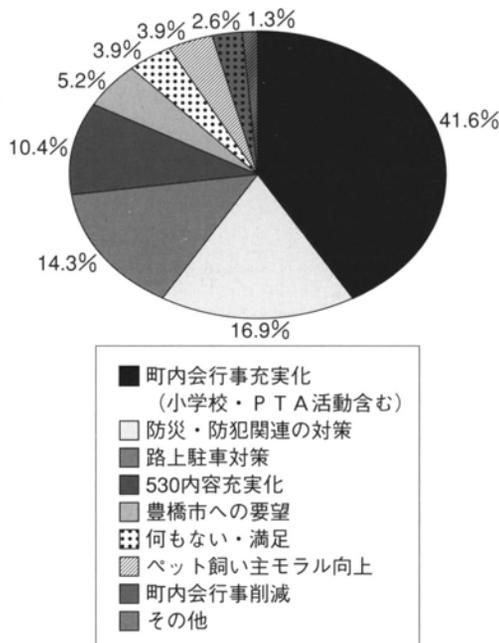
な情報伝達や、意見反映・意見抽出等によるスムーズな町内会運営を図る事を目的に、平成18年6月度より、総代会OBや若手総代、更には学生ボランティアなどのメンバーにより、富士見校区町内会オリジナルホームページを開設した。

このように、若手メンバーによる町内会活性化の気運は高い。

### ②今後の発展に向けて

このように、さまざまな活動を通じ、子どもからお年寄りまで全住民の方々の安全・安心で住み良い環境を創出している。

本章最後に、アンケートで、『校区として取り組んで欲しい事は?』の質問に対する住民の声を下記グラフで確認してみたい。



結果としては町内会行事の充実化と防災・防犯活動が半分以上を占め、住民もより安全で・安心、且つ心の充実感を、校区全体の問題として活動する事を望んでいるのが良く判る。これらの住民の期待に応えるべく、住民1人1人の自主的な校区行事への参加・協力により益々の発展に努力していきたい。

## 安全・安心と富士見



直ぐそこに迫っているとされる東海大地震などへの災害から、「自分たちで出来る事を足元から見つめて実行・実践して、より安全で安心な富士見をつくっています」と誰もが胸を張って言えるような“まち”にしたいと考えています。このような気運は平成14年4月に豊橋市が東海地震に対する地震防災対策強化地域に新たに指定された事が一因していると考えられます。

富士見校区では“まち”の歴史が浅く、住民も殆どが外部からの転入のため、「向こう三軒両隣」的な絆が比較的弱く万一の災害時の助け合い精神がどこまで発揮出来るかが正直な心配点であると思われまます。このような環境下で、平成15年度から町内会組織として立ち上げた「防災委員会」と「女性防火クラブ」及び豊橋市委嘱特別地方公務員の「消防団」と校区総代会の四位一体の献身的な活動と住民の自主的な参画により、住んでよかった・選んでよかった富士見を名実ともに得たいと思いますし、自分のこども・孫・ひ孫達へ安全・安心な富士見を残していきたいと願っています。

## 第3章 教育と文化

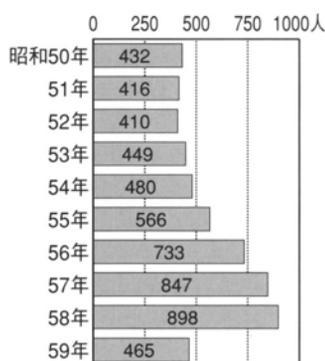
### 1 学校教育、幼稚園

#### (1) 豊橋市立富士見小学校

##### ①開校まで

レイクタウンに入居が始まった当初は、大清水校区であったので、子どもたちは約2kmの道のりを30分以上もかかって通学した。

新設小学校は、昭和60年(1985)建設の予定だったが、昭和56、57年のレイクタウンの人口急増に伴い、大清水小学校の児童数が大幅に増加した。



大清水小児童数の変化

そのため、新設校の早期開校を求める声が住民の中から沸きあがると同時に、遠隔地からの登下校の危険性という事情もあって、設置運動が積極的に推進された。



図書館を利用した教室 昭和56年度大清水小

##### ②富士見小学校の誕生

昭和58年6月11日の市議会でレイクタウン内に大清水小学校の分離校を設立することが決定した。

当時の大清水校区が母体となり開校準備委員会を発足させ、通学区・校名・校章・起工式・PTA組織等開校への準備を着々と進めていった。

開校準備委員会は校区の人たちから校名募集を行った。512点の応募があり、その7割が「富士見」案であった。「富士見」は、この地区の地名(南大清水町字富士見)である。覚えやすいこと、日本を代表する富士山を望み日本一の学校をめざすなど、格調も高くなり、なじみやすいことなどから、開校準備委員会は、「富士見小学校」に内定し、豊橋市へ報告。7月19日の市議会で可決、決定した。

学校敷地は、南大清水町富士見と西赤沢町深山の両地にまたがる16,352㎡で、昭和56年6月23日に起工式が行われた。

昭和59年3月、新校舎が完成した。校舎は延べ4,350㎡のコの字型の鉄筋コンクリート3階建て。普通教室17、特別教室6、管理室8からなり、豊橋市立小学校初の「屋上プール」を備える。

昭和59(1984)年4月3日、豊橋市内48番目の富士見小学校が誕生した。

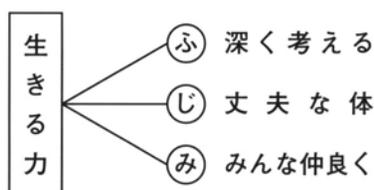
##### ③教育目標

本校の子どもたちは、親が全国各地からの出身者という典型的な都市型の小学校であり、ややもするとたくましさや積極性に欠ける面が見られた。

こうした実態から教育目標を次のように設定した。

- ・よく考え、進んで勉強する子
- ・助け合い、進んで働く子
- ・がまん強く、進んで鍛える子

4年目に入り、子どもたち一人ひとりが教育目標を常に自覚し、行動できることを願って校名の「ふじみ」を生かし、次のように改めた。



#### ④校章

校章は富士見小学校の「富士見」を漢字でデザイン化したものを下から新芽の形で囲み、これから伸びていく学校を象徴したものである。

<p>富士見小学校校章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「富士見」の漢字のデザイン化を基本とした。</li> <li>◎冠は富士山頂をかたどった。</li> <li>◎「土」は、元気な翼を表す。</li> <li>◎「見」は、豊橋の市章「ちぎり」と重ねた。</li> <li>◎下から双葉の形で校名を包み育ちゆく姿を示した。</li> </ul>
-----------------	---



#### ⑤校歌

昭和59年、校歌にふさわしい歌詞やことばを子どもたちや保護者から募集した。これらをもとに、当時の教頭・片桐直彦教諭を中心に何度も練り直しが行われ3番まで作詞された。「なかま、仲よく、勇気、愛、つばめ、太平洋、富士山、日本一・・・」など子どもたちのすがすがしい気持ちが表れた希望いっぱいの手づくりの歌詞ができた。

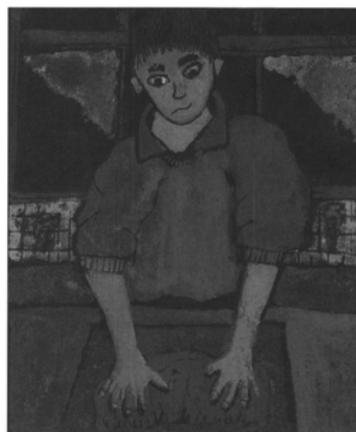
作曲は池田謙教諭に依頼した。昭和60年2月より10か月間は愛唱歌として歌い続け、12月に発表会を開催し、正式に校歌とした。

**富士見小学校校歌**

一、かがやく<sup>ひかり</sup>光<sup>うたごえ</sup> そよぐ<sup>かぜ</sup>風  
 ひびく<sup>うたごえ</sup>歌声<sup>な</sup> ほがらかに<sup>な</sup>  
 みんな<sup>なかま</sup>仲間だ<sup>ふ</sup> 富士見<sup>ふじみ</sup>の子<sup>こ</sup>  
 春<sup>はる</sup> 夏<sup>なつ</sup> 秋<sup>あき</sup> 冬<sup>ふゆ</sup> 六年間<sup>ろくにんかん</sup>  
 元気<sup>げんき</sup>いっぱい<sup>すす</sup> 進もうよ

二、太平洋<sup>たいへいよう</sup>の<sup>なみ</sup> 波<sup>なみ</sup>こえて  
 つばめ<sup>つばめ</sup>は今年<sup>ことし</sup>も やって来た<sup>き</sup>  
 富士見<sup>ふじみ</sup>生まれの<sup>う</sup> 子<sup>こ</sup>つばめも  
 小さな<sup>ちい</sup>体に<sup>からだ</sup> 愛<sup>あい</sup>うけて  
 ちえと<sup>ちえ</sup>勇気<sup>ゆうき</sup>を<sup>ゆう</sup> ふくらます

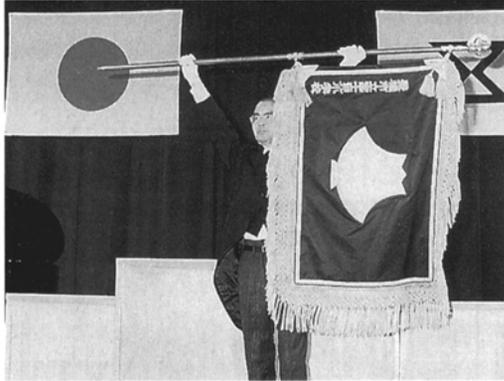
三、日本<sup>にほん</sup>一の<sup>いち</sup> 富士山<sup>ふじさん</sup>が  
 きょう<sup>きょう</sup>はくつきり<sup>くつきり</sup> 顔<sup>かお</sup>出した<sup>だ</sup>  
 富士見<sup>ふじみ</sup>のみなさん<sup>みなさん</sup> こんにちは  
 強く<sup>つよ</sup>やさしく<sup>やさしく</sup> おおらかに<sup>おおらかに</sup>  
 未来<sup>みらい</sup>めざせと<sup>めざせと</sup> 呼<sup>よ</sup>んでいる



⑥富士見小学校22年のあゆみ

昭和59年度

- 4月3日 開校式  
12学級 485名



開校式で、校旗を掲げる原田校長

- 5月21日 富士見マラソン開始
- 6月9日 清川正二氏を招いて屋上プールでプール開き
- 9月30日 開校記念運動会
- 11月11日 開校記念学芸会
- 1月25日 第1回りんご皮むき大会
- 3月20日 第1回卒業式

昭和60年度

- 4月1日 14学級 528名
- 7月26日 豊橋市教育委員会より「豊かな心を育てる活動」の研究委嘱
- 12月8日 校歌発表会を含む学芸会
- 3月5日 校歌扁額完成式

昭和61年度

- 4月1日 19学級 610名
- 8月1日 タイムカプセル埋没式
- 8月3日 市制80周年コンサート参加
- 11月21日 子ども郵便局表彰  
(大蔵大臣・日銀総裁)
- 1月27日 りんご皮むき大会  
(テレビで全国放送)
- 3月18日 「富士見の教育3年間」発刊

昭和62年度

- 4月1日 20学級 682名
- 6月27日 フィールドワーク  
(たてわり活動)
- 7月30日 交通安全教育県大会参加
- 10月14日 中校舎増築工事完成(3教室)

昭和63年度

- 4月1日 21学級 763名
- 5月31日 豊橋市教育委員会より家庭教育推進事業の研究委嘱
- 7月28日 愛知県自転車の安全な乗り方会競技会で団体準優勝
- 11月6日 両親学級(ウォークラリー)
- 11月25日 東三河家庭教育推進大会紙上発表
- 2月4日 親子マラソン大会
- 2月19日 両親学級(連凧づくり)

平成元年度

- 4月1日 22学級 836名
- 5月26日 豊橋市教育委員会より「学校経営」の研究委嘱
- 6月30日 三世代ふれあい清掃始まる
- 10月19日 東海北陸PTA研究大会で発表
- 11月24日 三河家庭教育推進大会で発表
- 3月18日 南校舎増築工事完成(3教室)



日本テレビ「ズームイン朝」の1コマ

平成2年度

- 4月1日 25学級 925名
- 5月29日 三世代ふれあい清掃
- 9月25日 富士見マイソング発表会
- 11月2日 「学校経営」研究発表会
- 12月16日 PTAバザー (一品寄付)



PTAバザー

- 1月24日 筆づくり教室

平成3年度

- 4月1日 26学級 954名
- 6月17日 あいさつ運動



富士見ウォッチング



あいさつ運動

- 8月3日 豊橋港フェスティバル参加  
(金管バンド、バトン)

- 11月10日 「富士見ウォッチング」実施
- 2月21日 筆づくり見学会

平成4年度

- 4月1日 27学級 963名
- 5月9日 家庭教育推進総会



家庭教育推進総会

- 6月1日 「あっぱれ大商店街」実施
- 10月24日 学校創立10周年記念事業準備会  
発足
- 1月30日 国際交流の会・講演

平成5年度

- 4月1日 26学級 936名
- 6月4日 10周年記念航空写真撮影



10周年記念航空写真

- 8月6日 「わかしゃち国体」開会式のリ  
ハーサル集団演技参加
- 10月23日 国際交流の会

平成6年度

- 4月1日 26学級 921名
- 4月4日 学級懇談会・学級委員選出
- 5月22日 学校創立10周年記念式典



創立10周年記念式典

- 6月21日 女子バスケットボール中央大会出場
- 9月29日 台風26号による竜巻で被害を受け臨時休校
- 10月30日 「わかしゃち国体」開会式の集団演技参加
- 11月15日 サッカー中央大会出場

平成7年度

- 4月1日 26学級 878名
- 6月6日 PTA給食懇談会



PTA給食懇談会

- 7月3日 漢字・計算大会

平成8年度

- 4月1日 24学級 817名
- 6月18日 男子バスケットボール中央大会出場
- 11月2日 PTA6ブロック研修大会
- 11月13日 サッカー中央大会で3位



サッカー中央大会3位

平成9年度

- 4月1日 24学級 758名
- 6月10日 男子バスケットボール中央大会出場
- 9月8日 夏休み作品展



夏休み作品展

- 10月24日 豊橋市小中音楽部授業研究会
- 11月11日 サッカー中央大会出場

平成10年度

- 4月1日 22学級 718名
- 5月28日 救急法講習会
- 6月18日 A L T巡回指導（ロジャー氏）
- 11月10日 サッカー中央大会出場
- 2月3日 集団かぜによる学級閉鎖

平成11年度

- 4月1日 20学級 677名
- 5月12日 あいさつ運動
- 6月1日 バスケットボールブロック大会  
男女優勝
- 9月9日 避難訓練および起震車による地震体験
- 11月9日 サッカー中央大会出場
- 2月9日 富士見の昔を語る会
- 3月22日 「チャレンジギネス」実施

平成12年度

- 4月1日 20学級 647名  
豊橋市教育委員会より「学習指導」の研究委嘱
- 4月24日 新入生交通安全教室
- 7月17日 バスケットボールブロック大会  
優勝
- 8月8日 水泳地区大会
- 10月17日 4年生福祉体験活動
- 11月10日 サッカー中央大会準優勝



サッカー中央大会準優勝

- 3月9日 6年生奉仕作業

平成13年度

- 4月1日 20学級 634名
- 4月17日 富士見スポーツタイム開始
- 7月19日 バスケットボールジュニア大会  
男女優勝
- 10月22日 運動会  
(ニューレイクの方々を招待)
- 12月6日 6年生大清水小との交流会

平成14年度

- 4月1日 20学級 608名
- 5月25日 運動会
- 7月19日 バスケットボールジュニア大会  
男女優勝
- 9月10日 5年生トヨタ田原工場見学
- 10月30日 「学習指導」研究発表会



研究発表会でのアトラクション



研究発表会に集まった教諭

平成15年度

- 4月1日 20学級 588名
- 5月28日 3年生三代交流活動
- 7月11日 4年生宇連ダム見学

平成16年度

- 4月1日 20学級 561名
- 6月7日 あじさい運動開始
- 9月25日 運動会  
(ベネズエラ大使館職員見学)
- 10月4日 コスモス運動開始
- 11月29日 ベネズエラとのフレンドシップ  
講演会
- 2月24日 授業参観およびPTA全体大会

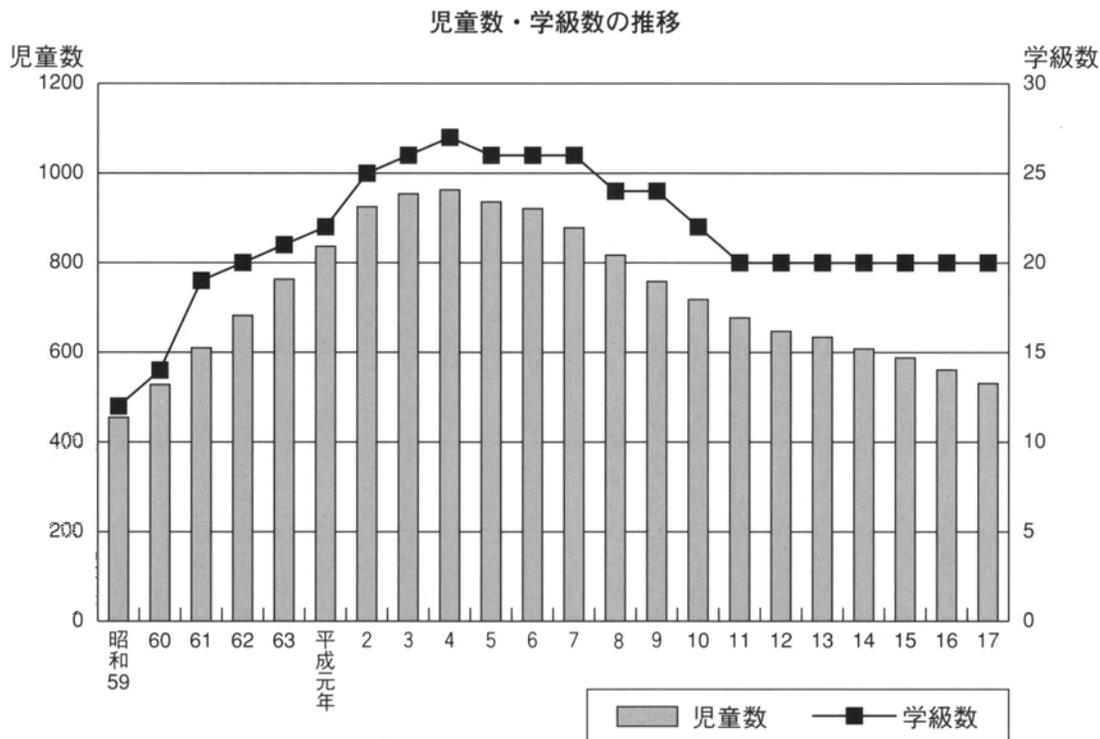
平成17年度

- 4月1日 20学級 531名
- 6月29日 愛知万博ベネズエラナショナル  
デー参加

⑦富士見小児童数・学級数の推移

昭和59年（1984）4月3日、児童数485名・12学級でスタートした。それ以後の8年間は、児童数・学級数ともに増加の一途をたどった。

平成4年度（1992）には、児童数963名・27学級となり、開校時の2倍を越えた。しかし、この年をピークにその後は減少傾向になった。学級数は、平成11年度（1999）から20学級と変化していないが、児童数の減少は今後も続くため、平成20年度（2008）以後は全年学2学級で児童数450名程度になると思われる。



## (2) 豊橋市立高豊中学校



### ①高豊中校区への編入

富士見校区は昭和59年度（1984）に高豊中学校区に編入した。これにより、高豊中学校の生徒数は一挙に倍増し、小規模校から中規模校となった。純農村的な高豊校区と新興住宅地の富士見校区との融合は、学校の活性化に大きな影響を与えた。創立40周年の記念碑に書かれた『和』という文字が未来の高豊中学校を象徴している。

編入前の昭和58年度には4階建ての新校舎が増築され、編入した昭和59年度には運動場の拡張、昭和62年度には校舎増築、平成元年度には柔剣道場『黒潮館』建築、63年度には部室棟建築、そして、平成3年度（1991）には新校舎増築と、着々と環境が整っていった。



### ②編入当時と現在の比較

#### 昭和59年度

- 4 / 1 高豊中学校区へ富士見小学校区の編入  
新1年生より高豊中学校へ入学
- 4 / 4 新任式、入学式、始業式、生徒会対面式
- 4 / 4 バレー部女子と庭球部男子新設
- 4 / 4 美しい環境づくり推進モデル校県指定
- 4 / 17 新築技術室ボーリング調査
- 5 / 31～6 / 2 1年野外活動 2泊3日
- 6 / 8～10 修学旅行（日光・東京方面）
- 6 / 12 石巻中学校生徒会と交歓会
- 6 / 16 第6回勤労体験学習
- 6 / 26 コンピュータ搬入
- 7 / 20 終業式
- 8 / 5 市各校代表二年生海外派遣開始（韓国）
- 8 / 24～26 生徒会リーダー研修会
- 9 / 1 始業式
- 9 / 8 部活動反省会（PTA主催）
- 10 / 8 校内競書会
- 10 / 16 話し方大会
- 10 / 23 校内写生大会
- 10 / 24 運動場拡張用地作業 建設委員会
- 10 / 31 遠足 田原町（現田原市）長仙寺全校徒歩
- 11 / 12 市民の日「市民の主張」生徒入選
- 11 / 9 「学校保健活動」で学校表彰を受ける
- 11 / 18 文化祭
- 11 / 25 第一回父親学級
- 11 / 25 県バレーボール大会出場
- 12 / 15 技術室竣工式
- 12 / 24 終業式
- 1 / 8 始業式
- 1 / 9～18 耐寒マラソン訓練
- 1 / 19 暁天マラソン 記念メダル贈呈新設
- 2 / 2 立志式・立志記念行事
- 2 / 16 親と子の話し合い（PTA主催）
- 3 / 14 卒業式 風船を飛ばして祝う
- 3 / 24 修了式

平成16年度

- 4 / 7 入学式・始業式・対面式
- 4 / 9 退任式
- 4 / 13 避難訓練
- 4 / 23 授業参観・PTA総会
- 5 / 7 海岸クリーン活動
- 5 / 12～14 家庭訪問
- 5 / 26～27 修学旅行
- 6 / 1 1年農業体験学習
- 6 / 5 資源回収
- 6 / 17 健全育成会総会・講演会
- 6 / 18 3年救急法講座
- 7 / 20 終業式
- 9 / 1 始業式
- 9 / 17・18 第8回黒潮祭
- 10 / 28・29 2年勤労体験学習
- 11 / 8～12 市生徒海外派遣(中国)
- 11 / 10 1年福祉教室(車椅子体験)
- 11 / 18 合唱コンクール
- 12 / 18 第32回暁天マラソン
- 12 / 22 終業式
- 1 / 7 始業式
- 2 / 1～3 2年自然教室(スキー体験)
- 3 / 2 卒業生に感謝する会
- 3 / 4 校内褒賞式
- 3 / 7 卒業式
- 3 / 10 1年福祉体験学習
- 3 / 24 修了式

生徒数・学級数の比較 ( )内は学級数

年度	昭和58	昭和61	平成16
1年	55 (2)	156 (4)	139 (4)
2年	63 (2)	154 (4)	132 (4)
3年	67 (2)	135 (3)	167 (5)
特殊			6 (1)
合計	185 (6)	445 (11)	444 (14)

③学校行事の変遷

昭和22年度(1947)に渥美郡高豊村立高豊中学校として発足して以来59年間、各年度の教育目標達成のために数多くの学校行事が行われてきた。その当時の社会や地域の要請、生徒・保護者・職員の希望や願いを基に様々な形で行われてきた。行事には伝統行事として受け継がれていくことの大切さ、新たな行事の創造の素晴らしさがあり、それらが時代のニーズに合わせて実施されてきた。

◎暁天マラソン



体育の授業の総仕上げとして、「厳しさと苦しさに打ち勝つたくましい心身の育成を図る」「太平洋沿岸にある学校の特色を生かし、暁天の中、学校をスタートし、日の出に輝く海岸まで走り抜くことで中学校生活の良い思い出をつくる」「ゴール後の海岸での親睦会を通して、PTAや周りの人たちに感謝する気持ちを養うとともに頑張った自分を称える」という目的で行われている。

体力と精神力を鍛えようと、昭和48年度(1973)から始まった特色のある伝統行事である。始めは耐寒訓練の総仕上げとして1月中旬に行われていたが、現在は2学期末に行われる。

全校生徒が東の空がかすかに明るくなる頃、身を切るような寒さの中、顔を紅潮させて荒い息を吐きながら、学校から高塚の海岸のゴールを目指して、男子は4.6km。女子は

3.6kmを走る。その姿は真剣そのものだ。

この行事のためにPTA役員・委員がコースの途中に安全のために立つ。ゴールした後は、海岸で調理した豚汁やお汁粉、おにぎりをみんなで楽しく語らいながら食べる。そこには、地域と学校が一つになった連帯感がある。

富士見校区から初めての1年生が入学した昭和59年度（1984）から、入賞者に金銀銅のメダルが贈呈されるようになった。また、走る距離やスタート、ゴールの位置は年度によって多少変わってきたが、生徒の真剣な走行と地域やPTAの人々の応援は変わらず、現在まで続いている。

#### ◎海岸クリーン活動



学校全体で校区の海岸を清掃することで『奉仕の精神を養う』『身近な自然や環境に愛着をもつ』『学校内や地域の美化にも関心をもつ』というねらいで行われている。

昭和61年度より生徒会が海岸をきれいにしようという目的で始まった。始めは海岸清掃活動の他「ゴミ箱の設置」「看板の設置」「シンボルマークの募集」なども行っていた。平成元年度の生徒会は海岸に遊びに来る人たちにゴミを持ち帰ってもらうために「ゴミ袋を入れた箱の設置」を行った。以前は集めたごみを海岸で燃やしていたが、今はPTAの役員・委員の協力でごみの搬出をしている。

また、海岸の清掃活動だけでなく、総合的な学習の時間や黒潮祭の展示でウミガメの保

護運動を行ってきた。高豊中学校区青少年健全育成会の活動としてもワッペンやポスターの作成、掲示を行った。市では、海岸への車の乗り入れを禁止し、そのための工事が行われている。



#### ◎黒潮祭（学校祭）

『仲間と協力して成し遂げた時の成就感を味わう』『文化的、体育的な活動に精一杯取り組むことで、自分や自分たちの集団の取り組みに感動し、人を感動させる事の喜びを味わう』というねらいで行われている。平成9年度（1995）より黒潮祭として、1日目は文化祭が、2日目は体育祭が2日間連続で行われている。



体育祭の内容は3種類ある。1つは大玉送り、障害物リレー、大縄跳び、騎馬戦などのように昔から運動会で行われてきた集団での種目。2つめはビーチフラッグ、キックでキャッチ、トライアスロンなど新しく考えられた個人参加種目。3つめはこれまで体育大会で行われてきた100m走や各種リレーなどの競技種目。種目の内容から分かるように始めは運動会として始まり、体育大会になり、そ

して体育祭へと時代の流れとともに変化してきた。フォークダンスが盛んに行われた時期もあった。



文化祭の内容はオープニング（開会式）、パフォーマンス大賞（学級エンターテインメント）、学級企画・展示コーナー、芸術鑑賞（音楽・劇・古典を3年間で1回りさせる）が行われている。

文化祭も時代と共に学芸会、映画鑑賞会、芸能鑑賞会、文化発表会、そして文化祭とその時代に合った内容で行われてきた。文化部による演奏、演劇、作品展示、生徒会役員による寸劇、学級で取り組む寸劇や展示発表、応募生徒によるバンド演奏、コント、漫才、歌など生徒が自分たちで企画・運営するものが多く取り入れられるようになってきた。職員ばかりでなく、PTAや地域の人たちの参加もある。

#### ◎合唱コンクール

『歌声あふれる学校づくりを目指し、学級の団結心や協調性を育てる場、音楽的表現力を高めるとともに音楽の楽しさや喜びを体験する機会』として行われている。授業や帰りの会で練習をし、学級対抗の形で競い合っている。保護者の関心がとても強く、大勢の参観がある。ライブレポートとよはしができたころは出かけていき、音響効果のよいホールで行ったこともある。

#### ◎修学旅行

以前は東京・日光への学年全体での団体行動による学習活動であったが、学級別・班別分散、訪問・体験などの学習活動が行われるようになってきた。

平成17年度（2005）は専門家に会ったり、普段できない体験をすることで追究の成就感を味わい、社会的視野をひろげるというねらいで希望別体験学習（伊豆高原）取材・体験訪問（東京）東京ディズニーランド（千葉）学級分散活動（東京）を行った。

#### ◎自然教室

自然に恵まれた場所で宿泊し、自然の中での体験活動を通して様々な学習をしてきた。ここ何年かは大自然の中でのスキー合宿を通して、『それぞれの目標や限界に挑戦することで、困難に屈しない強い心を育てる』という目的で行われている。

自然教室は「立志式」の記念行事として行われるようになった。「立志式」は2年生の行事として昭和57年度に始まった。江戸時代の元服の風習をもとに、少年から青年へと移り変わるときに自立心を培い、将来への志を持たせたいという願いから出発したもので講演会、30km歩行、職場体験活動、国際交流、カッター訓練、80kmサイクリングの旅など様々な形で学校の特色を出して行われた。

#### ④総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」とは平成14年度から始まった「生きる力」（自ら問題を見つけ、解決していく力）を育てるための学習で、問題追究のための調査・体験等いろいろな活動（今までの行事のような内容も含む）として職場体験、福祉体験、環境調査活動、福祉体験講座などが行われている。

以前は地域に関わる行事として勤労体験学習（いもの収穫祭、農業体験、介護体験、勤労体験活動）や福祉体験などがあった。

### (3) 富士見幼稚園・富士見台幼稚園

#### ①学校法人小鳩学園 富士見幼稚園

所在地 豊橋市富士見台1丁目14番地の1

#### 沿革

昭和57年(1982)4月 開園

4学級定員 160名

昭和61年4月 6学級 240名に増員

平成元年4月 8学級 320名に増員

平成12年4月 9学級 225名に変更

(新定員のため)

#### 教育方針

「あかるい子」「げんきな子」「がんばる子」をモットーに幼児教育の発達の特性をふまえ、園生活の中でさまざまな遊びの面白さに触れながら、色々な体験を通し、幼児自ら積極的、自発的に活動できる環境を構成し、生きる力の基礎を養う。

#### 園の運営について

教育期間は、小学校入学までの3年間とし、開園日は週5日制が実施されている。開園時間は、教育時間の午前10時から午後3時まで保育時間を加えた、午前8時30分から午後5時までとなっている。

園児の通園時における安全の確保は、園の運行する送迎バスの利用の有無に関わらず、登園時は保護者の手から職員の手へ、また、降園時は職員の手から保護者の手への原則が徹底されている。



富士見幼稚園

#### 園の年間行事

4月 入園式

5月 親子遠足・田植え

6月 両親学級・内科歯科検診

7月 七夕会・お泊り保育・プール

8月 プール遊び・プラネタリウム

9月 避難訓練

10月 運動会・豊橋祭り・芋ほり遠足・幼稚園祭

11月 七五三・消防署見学

12月 お遊戯会・おもちゃつき会・クリスマス会

1月 自由参観

2月 節分・なわとび大会・作品展・雪遊び

3月 ひなまつり会・マラソン大会・卒園式

こういった行事が、園の教育方針に基づき行われ、教育効果を高める、園児の実践の場となっている。

#### ②学校法人小鳩学園 富士見台幼稚園

所在地 豊橋市富士見台6丁目6番地の1

#### 沿革

平成3年(1991)4月 開園

3学級 定員120名

平成12年4月 6学級 定員140名

(新定員)

教育方針以下、富士見幼稚園と同じ。



富士見台幼稚園

## 2 社会教育

以下では、青少年教育・生涯学習という2項目に分け、富士見校区における社会教育の現状について報告する。

### (1) 青少年教育への取組みについて

#### ①富士見児童クラブ（公営）

**沿革** 平成8年4月1日 サンレイク文化センター（富士見台2丁目1-1）に開設。

**設置の目的** 下校時刻に、労働などで保護者が家庭にいない小学3年生以下の児童を対象に、授業終了後、適切な遊びおよび生活の場を与えて、その健全な育成をはかる。

**基本方針** ○基本的生活習慣の育成

○豊かな心の育成

○安全の確保

**開設時間等** 日曜、祝日、年末年始以外の日に開設。学校のある日は授業終了後から午後6時まで、学校の無い日は午前8時から午後6時まで指導員の下、平成17年度は37名の児童が生活指導を受けている。

#### ②富士見校区青少年健全育成会・家庭教育推進委員会

「子どもは地域の宝であり、国の宝である」を合言葉に、地域・学校・家庭が一体となって、平成4年5月（1992）会則を設けて「富士見校区青少年健全育成会・家庭教育推進委員会」（以下育成会）が結成された。

育成会の年間行事として、これまでは「富士見ウォッチング」と著名講師を招いての「講演会」が行われていた。「富士見ウォッチング」では、親子で、お年寄りと孫で、夫婦で町内を歩きながら、富士見の良さを再発見したり、ゲームを楽しんだりして盛況の内に推移してきた。ところが、平成14年（2002）4月、学校週5日制が完全実施され子供の空白時間は拡大した。育成会の存在価値は増大

しているのにも関わらず、中心行事だった「富士見ウォッチング」は、時期を同じくして参加者不足を理由に、中止となった。

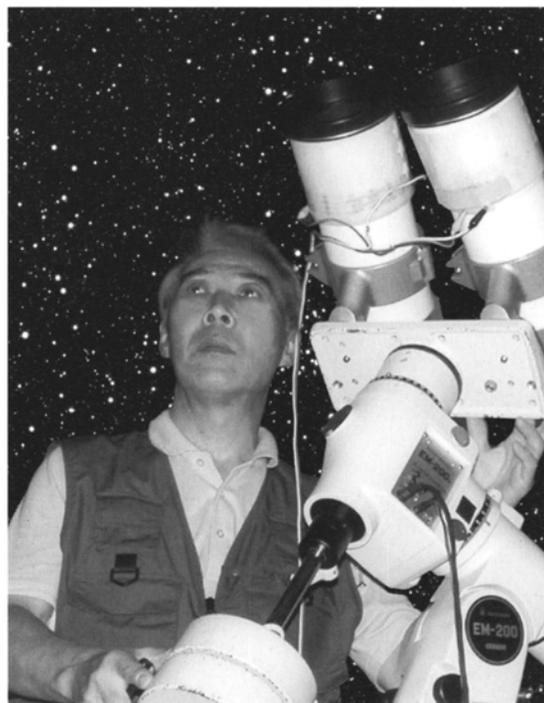
育成会はこれに代わる起死回生の特別企画を計画した。『平成18年度豊橋市制100周年記念地域イベント』として、富士見校区では、校区在住で世界的に有名なアマチュア天文家長谷田勝美さんを講師に招いて、

「一君も新星を発見しよう」

長谷田勝美氏と観る星の世界」

を企画した。

平成18年10月29日の開催に向けて、準備は着々と進んでいる。将来も継続的な行事にして、子どもたちに夢を与える場を提供して行けるようにと富士見校区青少年健全育成会・家庭教育推進委員会ががんばっている。



アマチュア天文家 長谷田勝美さん

## ③富士見校区子ども会



『富士見校区子ども会』は、レイクタウンの入居から3年後の昭和54年（1979）、『大清水校区富士見子ども会』として発足した。富士見小学校開校の1年前の昭和58年（1983）に大清水校区より独立し、『富士見校区子ども会』を結成。

富士見小学校に通う児童の希望者により構成されたが、加入者の減少が続き、平成16年（2004）度からは全員参加することになった。夏休みにはキャンプ活動が実施され、積極的な活動を続けている。

## 【平成17年度活動状況】

会員数 531名（富士見小学校全児童）

単位子ども会 4単子（1丁目、2・3丁目、  
4・5丁目、6丁目）

育成者 50名（会員保護者より選出）

## 年間行事

- ・育成者、リーダー講習会
- ・球技大会
- ・ラジオ体操
- ・校区盆踊り大会（夜店出店）
- ・夏のキャンプ活動
- ・校区祭りおみこし作成とパレード
- ・豊橋祭りおみこし作成とパレード
- ・単子クリスマス会 ・単子豆まき会
- ・6年生お別れ会 ・子ども資源回収

## ④豊橋市中央図書館ボランティアの活動

富士見校区市民館では、月1回子どものためのお話し会が開かれている。主催しているのは、『豊橋市中央図書館ボランティアの会』の富士見校区に住む6人のメンバーだ。放課後のひと時、子どもたちに本とお話しに親しむ憩いの場を提供している。楽しみに待っている小学生が何人もいる。本やお話しを通し、愛情を持って子どもたちを見守っているグループである。

中央図書館ボランティアは昭和59年（1984）年4月に発足し、平成17年（2005）度現在、登録会員数は184名にもものぼる。

活動日 第1木曜日（3時半～4時位）

## コラム お話玉手箱

「豊橋市中央図書館ボランティアの会」は、中央図書館を拠点に市民館、動物園、市内外の学校などで、本の読み聞かせ、紙芝居など様々な趣向を凝らし、子どもたちと本の楽しさ・感動を分かち合いたいと活動しています。『お話し玉手箱』を開いて、いつもお待ちしております。（秦 正子さん）



### ⑤富士見クラブ（軟式少年野球チーム）

『富士見クラブスポーツ少年団』は、昭和59年（1984）の富士見小学校開校と同時に発足した。青少年の健全育成を目的に野球を愛する少年少女を募り、25名でスタート。平成16年（2004）には創立20周年を迎え、その間の卒団者は240名に上る。平成17年度現在、中等部10名、学童部35名、総勢45名とともに、指導者57名で活動している。

平成7年（1995）、第12期生が新春トーナメント大会に優勝。豊橋代表として春の県大会に初出場し、初優勝を飾った。夏には県代表として全国大会にも出場した輝かしい実績がある。翌年も県大会に出場。平成10年（1998）には、県大会ベスト8まで勝ち進んだ。豊橋市の大会では常に上位に勝ち進み、大活躍している。富士見校区民の大きな誇りである。

活動日 土・日曜日



### ⑥富士見校区地域いきいき子育て事業

平成15年（2003）度、豊橋市では市内25校区を対象として、『地域いきいき子育て促進モデル事業』が開始された。富士見校区は25校区の一つに指定され、同年よりモデル事業に参加することとなり、年間25回の講座を開催。この事業は2年後には全校区で実施されるようになった。平成18年（2006）度からは、年間30回の講座開催を予定している。

#### 事業目的

週末、夏休み、冬休みなどに校区市民館を活動の拠点として、小学生を対象とした様々な講座を定期的で開催し、『子どもが健やかに育つ地域環境を整えること』を目的としている。現代の核家族化・少子化による家庭と地域の教育力の低下、学校週5日制の完全実施に伴う地域環境の整備の必要性が、実施理由として挙げられている。

#### 校区の現状と今後の課題

富士見校区では、市民館主事を中心に校区民の中から講師を募り、平成17年度までの3年間、様々な企画を実施してきた。初年度は活発な参加があったが、3年を経たことで子どもたちも新鮮さを感じなくなっている。参加するのは小学校付近の1～3丁目の子どもたちが多く、富士見台4～6丁目の小学生は遠いことから、参加しにくい状況にある。週末は色々なスポーツ少年団で活動する児童も多く、参加者は固定傾向にある。

しかし、スポーツだけでなく文化の面でも、子どもたちの活動の場が確保されることは非常に大切であり、意義深いことである。今後は一層の創意と工夫により、充実した講座が開催されることが期待される。性差と年代を越えた多くの校区民の参加が、今後の重要な課題といえる。

## ◇手話教室



## ◇えほん展



## 【3年間の参加者数】

- ・平成15年（2003）度 600人
- ・平成16年（2004）度 440人
- ・平成17年（2005）度 502人

## 【平成17年度実施講座（年間25回）】

おいしいクッキー作ろうよ
こいのぼりづくり（親子で楽しむふじみっこ）
おはなしの部屋（中央図書館ボランティア）①
手話教室
えほん100冊展（本の森）①
ビーズでステキな作品づくり①
セタづくり（親子で楽しむふじみっこ）
セタを飾ろう
ポスターを描こう・夏休み宿題お助け講座
ゆかたを着てみよう（1回目）
ゆかたを着てみよう（2回目）
そばを打って食べようよ
陶芸教室
五色のお月見だんご作り
おはなしの部屋（中央図書館ボランティア）②
ビーズでステキな作品づくり②
えほん100冊展（本の森）②
クリスマスリースをつくろう
フラワーアレンジメントに挑戦
おめんをつくろう（親子で楽しむふじみっこ）
おしるこ作って食べちゃう会
豆まき（親子で楽しむふじみっこ）
チョコレートケーキをつくってみよう！
えほん100冊展（本の森）③
ぼたもちできるかな

## (2) 生涯学習への取組みについて

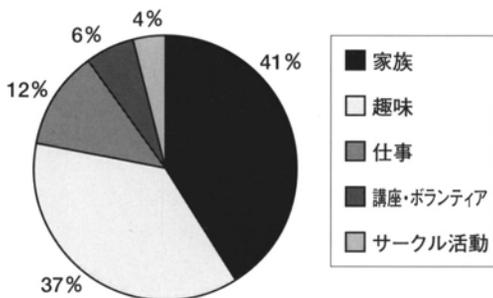
年齢、性別に関係なく、より豊かな生活や人生を求めて学習することを、『生涯学習』と呼ぶ。富士見校区では、赤ちゃんから高齢者までが、色々なグループを自主的につくり、趣味や生きがいを充実させている。以下では、校区に住む人たちを中心とした活動について紹介する。資料は、冊子編集にあたり、平成17年（2005）7月に富士見校区民に実施したアンケート調査に基づく。

### ①校区民の『生きがい』と『生涯学習』

「今、生きがいにしていることは？」という質問に、約4割の人が子どもの成長や、家族とのきずなを上げている。次に続くのが、スポーツ、旅行、園芸などであり、趣味として楽しめる事柄を上げた人も4割近くいる。

趣味でも、個人的に楽しんでいるだけではなく、英会話教室、絵画教室、料理教室、スポーツクラブに通ったり、読書サークル、セミナーなどに積極的に参加するようになると、『生涯学習』といった意識が強くなる傾向にある。芸能、文学、スポーツ、各種講座、手話などのボランティア活動などに、積極的に参加している様子もうかがえる。

#### 【今、生きがいにしていること】



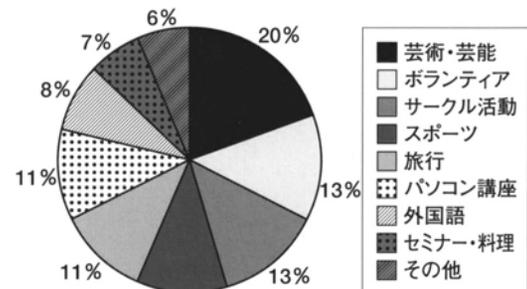
### ②『校区市民館』と『ふじみハウス』

『富士見校区市民館』と『ふじみハウス』が、校区民の自主的な生涯学習の場としての重要な役目を果たしている。

校区総代会では、『富士見校区市民館』に午前中、町内会事務員を常駐させている。一日中市民館が開いていることが校区民の生活を大きく支えており、生涯学習の拠点としての役割をしっかりと担っている。人がいることで、誰でもいつでも安心して使える施設となっているのである。富士見校区市民館では、月平均24グループが活動し、延べ300人を超える人が利用している。

『ふじみハウス』は、校区市民館を利用しにくい4～6丁目の校区民のために、町費と寄付金により、平成6年（1994）に完成した。広々とした集会室と児童室がある。ここでも、月平均16グループ、延べ200人を越える利用がある。

#### 【社会学習、生涯学習で現在やっている、またやりたいと思っていること】



【平成17年度校区市民館利用状況】

月曜日	健康体操	20人
	詩吟	8人
	カラオケ	6人
	ブレイクダンス	10人
火曜日	民謡舞踊	10人
	陶芸	10人
	絵手紙	8人
	拳法同好会	10人
	陶芸	10人
	自彊（きょう）術	10人
水曜日	手編み	4人
	ダンスサークル	10人
木曜日	エアロビクス	4人
	自彊（きょう）術	13人
	大正琴	6人
	津軽三味線	3人
金曜日	ふじみっこ	30人
	演歌	13人
	太極拳	10人
土曜日	書道教室	12人
	いきいき事業	25人
	いけばな教室	10人
	カラオケ	10人
	詩吟	10人

◇いけばな教室



【平成17年度ふじみハウス利用状況】

月曜日	健康体操	20人
	大正琴	10人
	英会話	7人
	ちぎり絵	8人
	少林寺拳法	20人
火曜日	コーラス	20人
水曜日	エアロビクス	6人
	演歌	8人
	そろばん	30人
木曜日	かきかた	20人
	空手	20人
金曜日	民謡舞踊	8人
	そろばん	30人
土曜日	絵手紙	5人
	ハーモニカ	4人
	絵画	10人

◇豊橋ハーモニーカルテット



◇らくらく体操クラブ



## コラム 子育て広場『ふじみっこ』

20年も続いている母と子のふれあいの場

活動日：毎週金曜日、10時半～12時

場所：富士見校区市民館の和室

対象：0歳～3歳までの子どもとお母さん



富士見校区では、幼稚園に入る前の0歳から3歳の子どもたちとお母さんのための子育てサークルがあります。その名も『ふじみっこ』。校区外の人もちろん参加でき、季節に合わせた行事や外遊びなど、世話役を中心に楽しく活動しています。昭和59年の校区市民館完成と同時期に発足。毎年世話役をバトンタッチしながら、こんなに長く続いている子育てサークルは豊橋市内でも大変めずらしいそうです。核家族化・少子化が進むなか、子どもの友達づくりとともに、母親同志の情報交換の場としての役目も果たしていると思います。平成17年度に参加している私たち27家族にとっては、自主運営ということで苦労もあるけれど、なくてはならない大切な母と子の憩いの場です。みなさん、ご参加ください。

(平成17年度世話役 前田洋恵さん)

### ③スポーツの拠点『富士見小学校』

健康な体と、楽しい仲間づくり、スポーツ愛好家の人たちを支えているのは富士見小学校だ。グラウンドも体育館も市民に開放されているため、多くのサークルが活動している。

#### ◇空手教室



### 【平成17年度富士見小体育館使用状況】

月曜日	バレーボール	20人
火曜日	バレーボール	18人
水曜日	バドミントン	15人
木曜日	バレーボール	20人
金曜日	バドミントン	27人
土曜日	バドミントン	27人
	空手	30人
日曜日	バレーボール	13人
	バドミントン	12人
	バドミントン	15人
	バレーボール	19人

### 【平成17年度富士見小グラウンド使用状況】

火・金	リベラル豊橋FC	50人	少年サッカー
土・日	富士見少年クラブ	80人	少年野球
土	レイク レディース	15人	ソフトボール
日	ジュビロ横田	16人	成人サッカー

## コラム 社会人サッカーチーム『ジュビロ横田』

若者中心の社会人サッカーチームが大活躍（平成14年結成）

メンバー：18名（19歳～25歳） 高豊中学の同窓生でサッカー好きの仲間中心

練習日：毎週日曜、夜7時～9時 富士見小グラウンド



対戦成績：

平成15年度 豊橋社会人6部リーグ  
2位

平成16年度 同5部リーグ 2位

平成17年度 同4部リーグ 全勝優勝

平成18年度 同3部リーグ参戦

チームの特徴：ほとんどのメンバーがサッカー未経験者。経験者の小野祐貴、柘植博文、僕ら3人を中心に、運動神経と断固たる気持ちでプレーしています。

サッカーの魅力：仲のいいメンバーで、気持ちを一つにして勝った時の“ものすごい感動”は、サッカーの魅力だと思う。

チームの目標：天皇杯に出場すること。結成当初のメンバーは、ほとんど未経験者の素人ばかりだったので、初めは全くサッカーになりませんでした。最初の練習試合では、9-0のボロ負けでした。それから毎週日曜日のナイター練習や、たくさんの練習試合で経験を積んで、平成17年度は、全勝優勝することができました。平成18年度は3部リーグに昇格です。もっと強い相手と対戦することになりますが、断固たる決意で優勝目指してがんばっていきたい！

（柘植雅文さん）

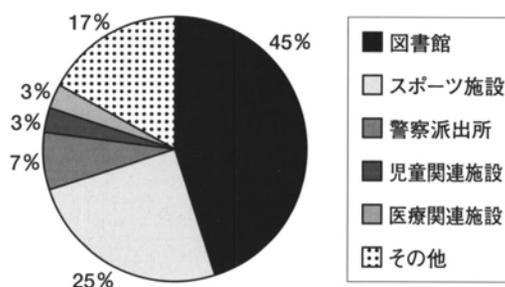
### ④建設が待たれる二つの『公共の施設』

#### 必要不可欠な施設『南地域図書館』

富士見校区総代会では、南部地域11校区総代会・「本の森」豊橋南部図書館友の会と協同して、生涯学習の拠点としての『南地域図書館』の建設を要望してきた。図書館は赤ちゃんから高齢者まで、すべての市民が平等に利用できる公共施設であり、一日も早い建設が待たれている。

平成17年（2005）度に策定された豊橋市図書館整備構想の中では、『南地域図書館の建設推進』が盛り込まれ、大きく建設に向けて動き出そうとしている。具体的な施策が速やかに実行されることを、富士見校区をはじめ南部地域全体が期待している。

#### 【欲しい公共の施設】



### 『南部総合運動場』の必要性

『総合運動場』の建設も多くの校区民が待ち望んでいる。富士見校区にある公園は、週末は少年野球の練習に充てられている。近くにスポーツ用のグラウンドがないため、十分に練習場所・時間が確保できないグループもある。一方で、週末などに公園を自由に使いたいと望んでいる校区民もいる。休日に公園がスポーツ施設として機能している現状には、大きな問題があるといえる。

スポーツを愛好している校区民は広い世代に渡っている。スポーツによって健康な体を維持でき、地域の人間関係も豊かなものとなる。健全な余暇の過ごし方を保障するためにも、総合運動場は不可欠なものだ。こちらも図書館と共に、早期の建設が望まれる。

### 豊橋市制100周年記念 富士見校区地域イベント ★ 月 ★ “君も新星を発見しよう” 長谷田 勝美氏と観る星の世界

平成18年（2006）10月29日に富士見小学校で開催された。長谷田さんの講演や星をテーマにしたコンサートの後、体育館内に特設されたプラネタリウムを楽しんだり、屋上に設置された天体望遠鏡を実際にのぞいて月や星を観測した。当日は開催直前まで曇り空で、観測ができるか危ぶまれたが、天体観測の時間には雲も消え、風もなく、多くの子どもたちが“星の先生”長谷田さんの指導で本格的な望遠鏡による、観測を楽しんだ。（下部写真：当日の様様）



望遠鏡の調整をする長谷田さん



長谷田さんのとても楽しいお話



子どももおとなも天体観測を体験



小学生有志による星をテーマにしたコンサート

## コラム

本文では収まり切れなかった **富士見の風景**



ふじみっ子のルーツをしめす小学校体育館の日本地図  
おとうさん、おかあさんの出身地は全国十海外。



校区史アンケート集計の様子

平成17年7月に実施しました。町内会加入全世界帯に配布し、多くの方にご回答をいただきました。みなさん、ご協力ありがとうございました。

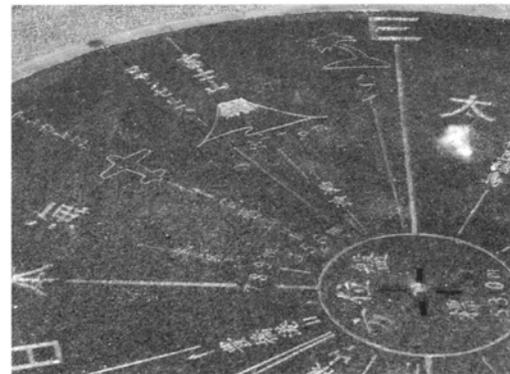
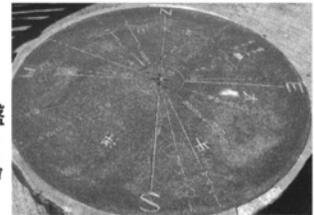


富士見校区の大動脈“富士見街道”  
上 大清水校区方面  
下 高豊校区方面



富士見展望台にある方位盤

下の拡大写真をよく見てください。富士山の両隣にロサンゼルスとハワイ!!



伊古部海岸

校区からちょっと南へ。  
こんなステキな浜辺があります。



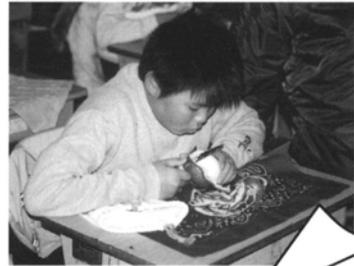
豊橋市水道局南部配水場

円柱形が台形に載っています。台形には丸く刈り込まれたツツジが。円柱と車の大きさを比べてみてください。

富士見小学校

りんご皮むき大会

富士見小学校の名物行事。玄関ホールには歴代チャンピオンの写真と記録が展示されています。



ニューレイククラブ 子ども見まもり隊 のみなさん



まちの人たちといっしょに防災を学ぼう！  
まちの人たちと防災の輪をつくろう！

# 富士見校区 防災訓練

※この事業は、愛知県みんなの防災ネットワーク構築モデル事業の一環として実施しています。

日 時：平成18年10月7日（土） 主 催：防災委員会  
あさ9時から12時まで（雨天決行）

場 所：富士見小学校

参加対象：1丁目～6丁目の全住民 ※各区の総長は必ず参加下さい。  
※参加できない場合は、代理の方をお願いします。

1. まちの「地震で危ないところ」は？ 探しながら歩いて集合して下さい

ブロック壁、電柱、大きな看板、…。まちには、大きな地震が起きたときに危なそうなところがありますか？防災の視点からまちを見ながら歩いて会場へ集合して下さい

皆さんのチェックをもとに、参加者全員で「ぼうさいマップ」を作りましょう。

★注意★ ①自宅から各自で歩き、9時までに学校へ到着して下さい。（詳しくはチラシをご覧ください）  
②小学生の参加も想定しています。路上での交通安全にご協力下さい。

2. 学校でいろいろな訓練・学習に参加しましょう

★「まちなかを確認しよう」  
各自が学校へ来る前に調べたことを地図へ書きこみ、参加者全員で「ぼうさいマップ」をつくりましょう。

★「避難所を知ろう」  
大災害で住宅が壊れなくなった人々のための「避難所」について学びましょう。告知病院から避難手段などについて紹介もあります。

★「煙を体験しよう」  
「煙ハウス」により、火災時の煙と避難について体験しましょう。

★「地震のゆれを体験しよう」  
「大地震」ってどんなの？  
揺れ車中で体験しましょう。

★「消火器を体験しよう」  
いざというときのために消火器のついかたを体験しましょう。

防災訓練は行かないと損！小学生以上の参加者には防災グッズを進呈します！

平成18年10月7日、富士見校区防災訓練が行われた。（左チラシ参照）

これは、愛知県みんなの防災ネットワーク構築モデル事業の一環で、富士見校区防災委員会が主催し、校区総代会、女性防火クラブが協力、市や消防本部の応援もあり、校区の多くの人が参加した。

当日は、各自、自宅から徒歩で防災上危険なところはないか確認しながら、朝9時に富士見小学校に集合。会場に着く前から、防災意識を高めてもらい、小学校では早速、参加者全員で「ぼうさいマップ」を作り、危険個所を確認。防災グッズの展示、コンピュータを使って部屋の安全性をチェック、「煙ハウス」「起震車」を体験したり、看護師さんから応急手当などを学んだ。



朝9時の受付 すでに多くの人々が集合



コンピュータを使って部屋の安全チェック



看護師による応急手当講習



「煙ハウス」体験

## 編集後記

平成16年12月富士見校区史編集委員会は8名の委員で発足し、市職員2名の方にサポーターとして加わっていただきました。編集会議で一番大切な問題として取り上げられたことは、「限られた紙数の中で、校区史をただ校区の史実の記録にとどめるのではなく、校区のビジョンをどのように盛り込むことができるか」ということでした。

そこで校区全世帯に校区のビジョンに関連したアンケートを行ってその集計結果を校区史の中に掲載することで、富士見校区の理想とする将来像を探ってみようとの方向が示されたのです。

校区の自治組織を私たちは総代会、自治会、町内会、などと呼んでいますが、町内会結成の必要性(目的)を掘り下げて探求することと、校区のビジョンを探ることは同一線上にあることに気が付きました。

さらに校区活性化の原動力としての年間行事をはじめとする校区活動の推進母体である役員の選出が、一年毎に輪番で交代を余儀なくされる組長を基盤としており、その継承発展性において、危険信号と隣り合わせにあることを知るのでした。

編集委員一同、発刊にあたり、資料提供等作成に際し、いろいろな面でご協力下さった方々に厚くお礼申し上げますとともに、この校区史が明日の富士見校区発展の素因になればと、願っております。

■編集委員	三浦 次郎	檜山 雅行
	安齋 誠二	水鳥 忠和
	高橋 聖子	杉浦 勝世
	吉田 尚子	彦坂由美子
■サポーター	大川 照人	朽名 栄治

『校区のあゆみ 富士見』発行にあたりまして、ご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。また、下記文献を参考にさせていただきました。

### 協力者(敬称略・順不同)

(株)総合開発機構 豊橋市立富士見小学校 豊橋市立高豊中学校 富士見幼稚園 富士見台幼稚園 豊橋鉄道(株) エコカーチャンピオンシップ運営委員会 松下元昌 本島寛一

### 参考文献

「伊古部郷土誌／伊古部町」「礎／豊橋富士見台土地地区画整理組合」「創立10周年記念誌 ふじみ／豊橋市立富士見小学校」「とよはしの歴史／豊橋市」「子ども会50年のあゆみ／豊橋市子ども会連絡協議会」「富士見クラブ20周年記念誌／富士見クラブスポーツ少年団」「万場調整池／水資源機構豊川用水総合事業部」

### 校区のあゆみ 富士見

平成18年12月25日発行

編集 富士見校区総代会  
富士見校区史編集委員会  
発行 豊橋市総代会  
印刷 共和印刷株式会社





